多賀城市教育委員会 点検・評価報告書

(令和3年度事業)

令和4年12月 多賀城市教育委員会

目 次

Ι		多賀	城	市教	女育	委	員	会	の	点	検	•	評	価	'																		
	1	教	育	委員	会	(D)	点	検	•	評	価		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
	2	令	和	3 年	连度	0	点	検	•	評	価	実	施	内	容		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
П		令和	3	年月	ŧσ	点	検	•	評	価																							
	1	教	育	委員	会		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3
		(1)	多	賀坂	九市	教	育	委	員	会	委	員		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3
		(2)	教	育委	員	会	0)	開	催	状	況		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3
		(3)	教	育委	員	会	0)	審	議	状	況		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	4
		(4)	研	修全	等	出	席	状	況		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	7
	2	学	識	経縣	食者	· 0)	意	見	活	用		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	8
	3	多	·賀	城市	うま	ち	づ	<	り	報	告	書	の	点	検		評	価	•			•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	12
		(1)	評	価糸	宇果	(D)	概	要	•		•	•	•	•	•	•	•	•			•	•	•	•	•	•		•	•	•	•		12
		(2)	多	賀坂		ま	ち	づ	<	ŋ	報	告	書	の	構	成	•	•			•	•	•	•	•	•		•	•	•	•		13
		(3)	多	賀坂	九市	ま	ち	づ	<	ŋ	報	告	書	لح	は											•			•	•		•	14
		(4)	_	策 ·																						•			•	•		•	15
		(5)	施	策 •	基	本	事	業	の	動	向	•	•																				17
	4	事		事業																													32
	-			価約	-					•																							32
		(2)		和 3						썲	箫		暫																				33
		(3)		務事		-							<u>-</u> •																				34
		(4)	-	事務								価	表	D	見.	方																	34
		(5)							_							•																	36
		(0)	VII.	7大口	і Іш	120	(7'	477	→.	$\overline{}$	ΗΙ	Ішц	1	,																		00
Ш		学識	经	いまり はっぱい はいしゅう はいしゅう かいしゅう かいし はいし はいし はい	ξ σ	音	目																										
		元多	-						学	枟	長				當	麻		哲		氏													59
		元多元多	- •						•						e 横			健		氏氏													63
		ルタ	只	クバ ロ	1 7/	. [¤]	ᄴᄞ	Τ'	丁	汉	ΙK				1円	ान		疋		1		-	-		-	-	-	-		-	-	-	00
IV		資料	Ĺ																														
- •		多賀		古多	か杏	甘	\star	+	針		会	和	2	仁	庄	纵	杏	舌	占	日	輝												67
		グ貝	ウス	111 %	ヘ月	巫	/+	//	业1	-	IJ	4.11	J	7	汉	火	Ħ	里.	111/	\Box	'जिं		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	01

I 多賀城市教育委員会の 点検・評価

I 多賀城市教育委員会の点検・評価

1 教育委員会の点検・評価

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が平成19年6月に一部改正され、平成20年度から教育委員会が教育行政事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

このことから、前年度実施した事業のうち、主要な事業について点検・評価を実施し、教育行政に関する学識経験者の意見を付した報告書をとりまとめました。

なお、点検・評価は「第六次多賀城市総合計画」及び「多賀城市教育振興基本計画」の体系に沿って、実施しています。

■地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)■

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

- 第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により 教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定に より事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況 について点検及び評価を行い、結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出 するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(平成27年4月1日施行)

2 令和3年度の点検・評価実施内容

(1) 教育委員会

令和3年度の開催状況及び審議状況並びに研修会等出席状況についてとりまとめ、点検・評価として実施しました。

(2) 学識経験者の意見活用

令和3年度に実施した点検・評価においては、学識経験者2名の方から意見をいただきました。この意見を受け、令和3年3月時点における各事務事業の検証を実施し、業務改善に活用しました。

(3) 多賀城市まちづくり報告書の点検・評価

教育分野の施策及び基本事業における成果指標の推移を踏まえた成果状況 等について、点検・評価を実施しました。

(4) 事務事業の点検・評価

令和3年度に実施した事業のうち、主要事業21事業について点検・評価 を実施しました。 Ⅱ 令和3年度の点検・評価

Ⅱ 令和3年度の点検・評価

1 教育委員会

(1) 多賀城市教育委員会

教育委員会は、教育長及び4名の教育委員による合議制の執行機関です。

(令和3年度末現在)

職	名	Ż	氏	名	備	考
教	育	長	麻生川	敦	令和元年 10 月	1日新任
教育县	長職務代	理者	菊池	すみ子	平成 30 年 10 月	11日再任
			樋渡	奈奈子	令和元年 10 月	1日再任
教	育 委	員	林	幹字	令和3年1月	1日新任
			小 野	聡 子	令和3年10月	1日新任

(2) 教育委員会の開催状況

令和3年度は、定例会及び臨時会を計16回開催しました。

	会 議 名	開催年月日	審議等件数
1	令和3年第4回定例会	令和3年 4月28日	5 件
2	令和3年第5回定例会	令和3年 5月26日	2 件
3	令和3年第6回定例会	令和3年 6月23日	2 件
4	令和3年第3回臨時会	令和3年7月9日	1 件
5	令和3年第4回臨時会	令和3年7月12日	1 件
6	令和3年第7回定例会	令和3年 7月28日	2 件
7	令和3年第8回定例会	令和3年 8月25日	1 件
8	令和3年第9回定例会	令和3年 9月29日	2 件
9	令和3年第5回臨時会	令和3年10月1日	1 件
10	令和3年第10回定例会	令和3年10月25日	2 件
11	令和3年第11回定例会	令和3年11月24日	0 件
12	令和3年第12回定例会	令和3年12月22日	4 件
13	令和4年第1回定例会	令和4年 1月31日	2 件
14	令和4年第1回臨時会	令和4年2月10日	1 件
15	令和4年第2回定例会	令和4年2月24日	4 件
16	令和4年第3回定例会	令和3年3月14日	5 件

(3) 教育委員会の審議状況

令和3年度は、議案19件、臨時代理事務報告14件、報告2件、計35件を審議しました。

会 議 名	審議內容
	・臨時代理事務報告第5号 臨時代理の報告について(多賀城市いじめ問題専門委員会委員の人事)
	・臨時代理事務報告第6号 臨時代理の報告について(多賀城市学校給食センター運営審 議会委員の人事)
令和3年 第4回定例会	・臨時代理事務報告第7号 臨時代理の報告について(多賀城市社会教育委員の人事)
	・臨時代理事務報告第8号 臨時代理の報告について(多賀城市いじめ問題専門委員会委 員の人事)
	・臨時代理事務報告第9号 臨時代理の報告について(多賀城市学校給食センター運営審 議会委員の人事)
令和3年	・議案第12号 多賀城市社会教育委員の人事について
第5回定例会	・議案第13号 多賀城市スポーツ推進審議会の人事について
令和3年第6回定例会	 ・臨時代理事務報告第10号 臨時代理の報告について(令和3年度多賀城市一般会計補正予算(第3号)に対する意見) ・議案第14号 多賀城市学校給食センター運営審議会の人事について
令和3年第3回臨時会	・議案第15号 令和4年度多賀城市立小・中学校使用教科用図書の採択基準 について
令和3年 第4回臨時会	・議案第16号 令和4年度使用教科用図書の採択について

	議案第17号
令和3年	令和4年度使用教科用図書の採択について
第7回定例会	• 報告
	令和3年度学校給食の現状について
令和3年	議案第18号
第8回定例会	休業日の指定について
	· 臨時代理事務報告第11号
	臨時代理の報告について(令和2年度多賀城市歳入歳出決算
令和3年	に対する意見)
第9回定例会	· 臨時代理事務報告第12号
	臨時代理の報告について(令和3年度多賀城市一般会計補正
	予算(第6号)に対する意見)
令和3年	• 報告第2号
第5回臨時会	教育長職務代理者の指名について
	・議案第19号
	多賀城市教育委員会が行う行政手続における押印等及び性別
令和3年	記載の見直しに伴う関係規則の整理に関する規則の制定につい
第 10 回定例会	7
	議案第20号
	成年年齢引き下げに伴う成人式の対象年齢について
令和3年	(「諸般の報告」のみ)
第11回定例会	
	· 臨時代理事務報告第13号
	臨時代理の報告について(議会の議決を経るべき事件の議案
	の作成に係る意見)
	• 臨時代理事務報告第14号
AT- 0 F	臨時代理の報告について(令和3年度多賀城市一般会計補正
令和3年	予算(第9号)に対する意見)
第12回定例会	議案第21号
	令和2年度多賀城市教育委員会点検及び評価の結果に関する
	報告書について
	• 議案第22号
	令和3年度多賀城市教育功績者等表彰について

令和4年	・議案第1号 令和4年度多賀城市教育基本方針及び教育重点目標について ・議案第2号
第1回定例会	・ 職業第2号 特別史跡多賀城跡附寺跡第3次保存管理計画の計画期間の延伸について
令和4年	議案第3号
第1回臨時会	県費負担教職員の任免等の内申について
	・臨時代理事務報告第1号 臨時代理の報告について(議会の議決を経るべき事件の議案 の作成に係る意見(工事請負変更契約の締結))
令和4年 第2回定例会	・臨時代理事務報告第2号 臨時代理の報告について(令和3年度多賀城市一般会計補正 予算(第11号)に対する意見)
第 2回於例云	・臨時代理事務報告第3号 臨時代理の報告について(令和4年度多賀城市一般会計予算 に対する意見)
	・議案第4号 令和3年度多賀城市教育功績者等表彰(追加)について
	・議案第5号 多賀城市教育委員会組織規則の一部を改正する規則について
A.T. A.F.	・議案第6号 多賀城市教育財産管理規則及び多賀城市教育委員会における 多賀城市の私債権の保全及び管理に関する条例施行規則の一部 を改正する規則について
令和4年 第3回定例会	・議案第7号 多賀城市立学校施設の開放に関する規則の一部を改正する規 則について
	・議案第8号 職員の人事について
	・議案第9号 県費負担教職員の任免等の内申について

(4) 研修会等出席状況

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため各研修会等が中止となり、1回の研修会等に出席しました。

月日	研修会等名称	開催地
令和3年 7月7日	宮城県教育委員会・市町村教育委員会教育懇話会全体会議	仙台市

2 学識経験者の意見活用

令和3年度に報告した「点検・評価報告書」において、令和2年度に実施した事業に対し学識経験者2名の方からいただいた意見を受け、本市教育委員会は各事務事業を検証し、業務改善に活用しました。

※令和3年度に報告した「点検・評価報告書(令和2年度事業)」における 学識経験者

元塩竈市立第一小学校長 星 篤 氏 元多賀城市立高崎中学校長 横橋 健 氏 施策1 学校・家庭・地域の連携による教育力の向上

学識経験者の意見

すべての中学校区に設置された学校支援地域本部は、学校と家庭、地域を繋ぐ大きな役割を担うものである。 今後、事業の質を高めていくためには、運営を担うコーディネーターの存在が大きいと思われる。そのためには 担い手の継続的な育成や将来のコミュニティ・スクールへの移行を念頭に置いた着実な取組が必要であると考える。

る。 「放課後子ども教室」は子どもの放課後等の安全・安心な居場所づくりとして、継続的に運営されてきたが、 運営に携わるボランティアの確保等課題になっている。 特に新型コロナウイルス感染拡大の影響により、「放課 後子ども教室」や児童館、学校と地域とが連携した事業 等の活動を中止・縮小せざるを得ない状況であったが、 可能な範囲で実施できたことは評価できる。

また、新型コロナウイスル感染拡大によって、子どもたちが家庭で過ごす時間が増加するなか、保護者による教育の比重が大きくなっている。家庭の多様性に対応した支援の内容や方法を探りながら、学校・地域が家庭を支援して行かなければならないと考える。

令和2年度は全体的に新型コロナウイルス感染症の影響が非常に大きかった。しかしながら、全体的な学校・家庭・地域の連携は十分に果たされていたと思う。諸事業が縮小、中止になったにもかかわらず、それ以外の家庭での取り組みや保護者の思いは果たされていたように思う。

しかしながら、学校が休校になり、家庭で多くの時間を過ごさなければならなかったり、外遊びがなかなか出来なくなったりした児童生徒に対して、行政から何らかの支援事業を展開出来なかったのか、という思いは残る。

新型コロナウイルス感染が拡大している非常時では、 学校・家庭・地域の連携は、平時におけるそれとは違う ものを求められるのではないだろうか。

ともあれ、多賀城市での学校・地域が連携した子ども たちの育成については、地域・保護者・学校にその意識 が高まり、成果は十分に達成されていると思われる。

検証 (現状、今後の方針)

令和4年度より、中学校区に設置された学校支援地域本部による連携体制を基盤として、より多くの地域住民等の参画による学校・家庭・地域の連携・協働体制を構築するため、「地域学校協働本部」を設置しました。

こんにより、子どもの放課後の安全・安心な居場所づくりを担う「放課後子ども教室」や学校の要望に応じ地域ボランティアが支援する「学校支援活動」などの地域学校協働活動を更に推進し、児童・生徒の健やかな育ちを支援します。

令和4年度は、地域学校協働活動推進員、放課後子ども教室コーディネーター、小中学校教職員等が参加し、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールとの関係性についての情報交換や、外部講師を招き、ワークショップを主とした研修会を行いました。

ミュニティ・スクールとの関係性についての情報交換や、外部講師を招き、ワークショップを主とした研修会を行いました。 家庭教育支援については、これまで、家庭教育の重要性に関する認識を深めることを目的として、入学説明会等、保護者が集まる機会を活用し講座や研修会を開催していましたが、多くの人が集まることを国難な状況が続いており、中止を余儀なくされています。現在は星空観察教室をはじめとする親子体験型の講座を、人数制限を設けるなどの工夫をして行っています。

「協働」観点から、地域の方々の支援をいただける事業内容や手法 について引き続き検討し、実施してまいります。

施策2 学校教育の充実

学識経験者の意見

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大という未曽 有の事態に見舞われ、学校教育の分野においても多くの 行事が中止や縮小せざるを得ない状況に陥った。

小中学校では感染防止対策を講じながら、新学習指導要領が示す「主体的で対話的な深い学び」の視点に基づき、授業づくり研修会や全教職員研修会を継続して実施した。教育の質の向上という点から、今後とも継続して実施していくことが望まれる。また、国の「GIGAスクール構想」により整備が進んでいる一人一台のタブレット端末を有効活用できるよう、環境整備や教職員研修を充実させる必要がある。

るとしている。 ここのでは、子どもたちが夢や希望を持ち充実した学校生活を送ることができるよう、これまで以上に幼児教育から小学校教育へ、そして中学校教育への円滑な移行を図るとともに、異校種間の連携に努めたい。

検証(現状、今後の方針)

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を勘案しながら積極的に学校行事を実施し、児童生徒の成長に資する教育活動に取り組みました。

「主体的で対話的な深い学び」においては、児童生徒が、自身の興味関心について主体的に学ぶこと、他者との対話のなかで自身の考えを広げ深める学びをすること、得た知識を関連付けたり精査することがで問題に対する解決策を見い出したり、新たなものを想像することが求められています。

対話的な学びについては、対面での教育活動に制限が課されている 状況ですが、アフターコロナに向けて児童生徒が質の高い学びを得ら れるよう、総合的な学習の時間の充実(キャリアセミナーや職場体験 の実施やICT機器を活用した調べ学習等)とともに、多様な教員研修の 継続的な実施により教育の質の向上を図っています。

令和4年度から、県の学力向上マネジメント推進事業を活用し、多 賀城市の「安心して学べる居場所感」「没頭して夢中になれる学習」 という教育方針のもと、学力向上の取組を行っております。 具体的には、県から学力向上マネジメントアドバイザーの派遣を受

具体的には、県から学力向上マネジメントアドバイザーの派遣を受け、学校が児童生徒の学力向上に向けた現状把握、対策の検討及び改善に取り組むとともに、学校同士が互いの取組や成果を情報共有し、小小連携や小中連携等の検討を進めております。

タブレット端末の活用については、市独自の取組として、教員から タブレット端末活用研修員を募集し、活用推進に取り組んできまし た。令和4年度からICT機器を用いた学習のなかで、児童生徒が夢中に なれる学びを行うことができるよう、ICT支援員を派遣して教員支援を 行うなど、環境整備等に努めています。

行うなど、環境整備等に努めています。 また、幼児教育と小学校教育については、福祉関係の部署と連携した保幼小連携事業として、保育所・幼稚園及び小学校の教員が合同で参加する研修会を実施し、円滑に小学校入学が進められるよう、取り組んでおります。以上、これらの取組を引き続き継続し、学校教育の充実に努めてまいります。 学校生活が楽しいという児童生徒の割合が増加傾向にあり、75.8%もいるのは大変素晴らしいことだと思う。仲の良い友達がいるから、学校生活が楽しいと判断させる根拠が弱いと思う。学校生活の中で授業が占める時間的な割合はおおよそ3分の2といわれている。その授業が楽しいと感じる生徒が増えていることこそ、学校生活の充実につながっていることと考えられる。教育委員会の指導の下、各学校の校長先生を初め先生方の努力に敬意を表したい。

一方で不登校の生徒の増加が大きな課題になっている。不登校の原因は様々指摘されているが、不登校傾向が見られた児童生徒と保護者への早期の支援を充実させ、教員への不登校傾向が見られた場合の対応等の研修を支援するような施策に期待したい。

不登校をはじめとする学校不適応への対応に当たっては、日々の児 童生徒の変化を見逃さず、組織的なアセスメントを経て、早期に適切 な支援につなぐことが必要です。

な支援につなぐことが必要です。 価値観や社会制度の多様化により、児童生徒・保護者・家庭が抱える課題は複雑化していますが、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーといった心理・福祉の専門家を学校現場に配置、派遣することで、不登校児童生徒の早期発見や保護者・教員等への相談支援を行っています。

はます。 また、児童生徒の多様な課題に対応する一つとして、県の不登校等 児童生徒学び支援教室充実事業により、教室に入ることができない児 童生徒への支援に取り組むとともに、担当教員等で事例検討を含めた 研修会を実施し、教員の資質向上に努めております。

さらに、教員の働き方改革を推進することで、教員が児童生徒の変化に気付くことができる環境の整備に努めるとともに、生徒指導担当教員が情報共有できるネットワークの構築やその機会の提供、研修の充実を行ってまいります。

施策3 生涯学習の推進向上

学識経験者の意見

新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な事業や活動が中止となり、充分に活動できず参加人数が減少した。このことは、公民館や市立図書館を始めとする社会教育施設に新たな課題を提起した。新しい生活様一は会の在り方を考える中で、ウィズコロナ・アフターコナ社会を生き抜くために必要な学習機会をどのようになりを重視してきた生涯学習施設でのこれまでの学習方法をどのようにオンラインを取り入れ、効果的に進めていけばよいのか検討していただきたい。

また、施設の老朽化対策も課題である。多賀城市公共 施設等総合管理計画に基づき、計画的に改修願いたい。

やはり新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きかったと思われる。文化センターの利用者数、事業への参加者数は大きく減っている。しかしながら新型コロナウイルスの感染が拡大する以前は増加傾向であったことを踏まえると、今後の伸びが期待できる。コロナによって外出や人との交流が制限されてきたことを踏まえると、サークル活動や文化的事業への参加者増が期待できるであろう。より魅力的な事業や中断しているサークル活動への再開への支援が求められると思う。

市民図書館の利用については、新型コロナウイルス感染拡大による休館があったもののそれほど利用者の減少にはつながっていないようである。休館期間を除き、1ヶ月あたりの利用者数を見てみると、昨年度より増えていることが分かる。今後も魅力的な図書館づくりを進めて欲しい。

検証 (現状、今後の方針)

令和3年度は、公民館など公共機関で開催する事業への参加者について、特に高齢者世代を中心に減少傾向にありましたが、インターネットを含む多様な学習環境の整備が進み、自宅等での学習機会が増えていることから、生涯学習を行っている・学習機会に満足している市民割合は大きな低下とはなりませんでした。

令和4年度は、市民会館・地区公民館の公衆無線LAN (Wi-fi)の環境整備を進めることとしています。これにより、遠隔地と施設をつなぐことや、動画などの配信を活用した講座・学習会の実施など、オンラインを活用した事業や活動等に取り組みやすくなります。新たな取組みを工夫しながら、時代の変化とニーズに合わせた社会教育の推進について引き続き検討し、実施してまいります。

令和4年度は、文化センターの大規模改修を行っています。他の施 設においても、計画的に改修を進めてまいります。

令和3年度は、文化芸術鑑賞・活動をしている市民割合は、高齢者 世代で減少傾向にあり、地域での行事等が減少したことが要因と考え られます。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で事業の中止等が相次いでいましたが令和2年度までと比較し、令和3年度以降は、対面で開催する事業や貸館の利用状況は増加傾向にあります。今後は、地域で活動する団体・サークル等に対し、感染症対策や活動の場の提供など、活動の再開や活性化に向けた支援を行ってまいります。

市立図書館におきましては、令和3年度は令和2年度と比較し、利用 者数・貸出数等は増加しております。おはなし会や講座・講演等の事 業数も増加しており、今後も魅力的な図書館運営を進めてまいりま す。

施策4 市民スポーツ社会の推進の向上

学識経験者の意見

子どもから高齢者に至るまで誰もが日常的にスポーツに親しむことができる環境の提供は、精神的な充足感や楽しさ、喜び、心身の健全な発達を促すことになる。しかし、社会体育施設等におけるスポーツ教室や各種大会が、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となり、例年に比べると参加者が大きく減少した。感染対策を十分に行うとともに、開催方法を工夫し、施設の利用促進を図ってほしい。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の延期により、市民のオリンピック・パラリンピックに対する関心は余り高まらなかったが、準備段階で得たことを、スポーツの楽しさや障がいを持つ人々への理解へと繋げていきたい。

検証(現状、今後の方針)

令和3年度は、新型コロナウイルス感染前と比較すると参加者は減少しておりますが、前年度と比較すると増加に転じています。引き続き、地域の感染状況等を鑑みながら、感染対策を行い、施設の利用促進を図ってまいります。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、仙台市とともにキューバ共和国(野球・バレー)の事前キャンプ受入を予定しておりましたが、同国が本大会への出場権をかけた予選会で敗退したことから、選手との交流を行うことはできませんでした。しかし、聖火リレー(JR多賀城駅北口広場から宮城県東北歴史博物館まで)を行ったことにより、市民のオリンピック・パラリンピックへの気運が高まり、スポーツの楽しさや感動、障がいを持つ方々への理解に繋がっていったのではと考えています。

市民スポーツに関して、ハード面ではしっかりとした 施設管理と運営がなされていることは喜ばしいことであ ソフト面では新型コロナウイルス感染防止の観点か 傾向が続いている。コロナによる規制が緩和された後も この傾向が続いていくことも考えられる。

住民のスポーツの関心を高めるような魅力的な事業を 行っている先進的な他県、他市町村等での取り組みを参 考にして新しい事業を立ち上げることを期待したい。

令和3年度には、新たな試みとして、政庁跡周辺約4kmのコースを 歩きながら、地元菓子店が提供するスイーツを楽しんでいただく「多

賀城スイーツウォーキング」を開催しました。 また、多賀城市・明治安田生命保険相互会社との包括連携協定のも と、元プロサッカー選手と宮城教育大学を講師にむかえ、サッカ-技術と防災の知識を学ぶ「防災サッカー教室」を開催しました。

今後も様々な分野と連携を図り、スポーツへの関心を高めてまいり

施策5 文化財の保護と活用

学識経験者の意見

特別史跡多賀城跡附寺跡の保存・管理については、 存管理計画に従い公有化が適切に進められている。埋蔵 文化財の発掘調査や収蔵資料等の適正な保管についても 計画に従い適切に進められている。

復元整備事業は平成30年度から工事に着手し、 6年の多賀城創建1300年の一般公開に向けて工事が 進められている。復元される南門を含めた特別史跡周辺 ·帯を多賀城跡として整備することを期待している。

こうした遺跡や施設を訪れる人々の歴史や文 化への理解や体験が促され、生涯学習や観光等の活動に つながる地域資源として一層活かされていくことを期待 する。多賀城の魅力をたくさん発信していくことで、交 流人口の更なる増加を期待したい。

多賀城跡の復元整備事業が順調に進んでいることは 喜ばしいことである。コロナ禍にもかかわらず、文化財 の普及啓発に関して順調に成果を上げていることは、大 変素晴らしいことと思う。

これからも市の文化財を次世代に継承していくことの 大切さを市民に理解していただくような取り組み、長い 歴史ある多賀城市への愛着を持つような取り組みを今後 も期待したい。

検証(現状、今後の方針) 特別史跡多賀城跡附寺跡の保存・管理については、特別史跡多賀城 跡附寺跡第3次保存管理計画に従い公有化を進めており、公有地に あっては年間を通じた除草や定期的な見回り等により適正な維持管理 |に努めています。

埋蔵文化財の発掘については、遺跡に影響を及ぼす工事及び恒久的 な工作物の建築工事の際は、適切に発掘調査を実施し、記録の保存に |努めています。

また、収蔵資料については、出土資料を含め適切に整理保管してい ます。

特別史跡多賀城跡復元整備事業については、多賀城創建1300年 を迎える令和6年に向けて、築地塀復元・地形修復工事にも着手して まいります。

古代多賀城が政治・軍事のみならず、文化的にも東北地方の中心で あったこと視覚的に表現し、貴重な文化財を次世代に継承していくとともに、文化交流拠点として市内外の多くの方々が多賀城を訪れるよ う、復元した南門を核に、様々な場面で広くPRしてまいります。

総括的意見

学識経験者の意見

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大という未曽 有の事態により、学校教育の分野においても、生涯学習の分野においても、多くの行事や事業が中止や縮小に追 い込まれた。前例のない状況で判断が求められる中、 れぞれの立場で最も良いと思われる行事や事業の推進を していただいたことに感謝するとともに敬意を表した

最後に、多賀城市総合計画の各基本事業で設定されて いる複数の指標の中には、事業を量的・質的に評価する にあたり、限定的なデータとなってしまう可能性が感じ られるものがある。実態や全体像をしっかり評価できる 指標に基づいた評価が望まれる。各項目について、精 査、検討いただければと考える。

今年は新型コロナウイルスの蔓延に伴い様々な事業が 中止または縮小せざるを得ない状況であった。しかしな がら、そのような状況でも市民の生活は続いていたわけ 行政の支援も一方ではコロナ対策が第一であったと 思うが、一方で日常的に行わなければならない事業には しっかりと取り組んでいたことは評価に値する。

新型コロナウイルス感染防止のためにいわゆる巣ごも り状態になり、運動不足になっているとも言われている。コロナによる影響を検証し、今後のウイズコロナの 時代に即した新たな取り組みを期待したい。

検証(現状、今後の方針)

令和2年度は学校、各種施設の一斉休業を経て、「学びを止めな 」という観点から、工夫しながら各種事業に取り組んできました。 い」という観点から、 学校においては、令和3年度以降、密を避けるため始業式、修了式の オンライン配信や、タブレット端末の家庭への持ち帰り学習を開始な ど、学校ICTの活用を進めてきました。

また、生涯学習においては、講座内容、募集人数の見直しや、オンライン講座の実施等により制約がある中でも様々な事業に取り組んでき

ました。今後も状況の変化に対応し、事業推進に努めてまいります。 各種指標につきましては、計画期間を令和3年度から令和12年度 とする第六次多賀城市総合計画の策定に際し、基本事業体系並びに施 策等の目指す姿及び成果指標の再調整・再検討を行いました。 ケート項目についても、目指す姿や関連する事務事業の成果が表せる ものとなっているか設問内容の検討、再確認を行いました。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、 「新しい生活様式」 を実践し、中長期に渡り感染症対策と向き合う中で、運動不足から身体的及び精神的な健康を脅かす健康二次被害も懸念されています。意 職的に運動・スポーツに取り組むことは、健康の保持、増進だけでなく、ストレス解消、自己免疫力を高めてウイルス性感染症を予防することにも役がちます。感染症対策を十分に講じながら、引き続き、生 |涯学習に繋がる取組として企画運営してまいります。

3 多賀城市まちづくり報告書の点検・評価

教育委員会における施策及び基本事業の「目標達成度」について、点検・評価を行いました。

(1) 評価結果の概要

施策	件数	基本事業	件数
達成	1 件	達成	4 件
高	0 件	高	1 件
中	5 件	中	16件
低	0 件	低	0 件
合 計	6 件	合 計	21件

※1 目標値を設定していない下記2件の基本事業は、除いています。

施策02-基本事業02「再登校率」

施策05-基本事業01「適正に調査・保護された文化財の件数」

(2) 多賀城市まちづくり報告書の構成

Ⅳ 多賀城市まちづくり報告書(第六次多賀城市総合計画進捗状況報告)

- 1 多賀城市まちづくり報告書(第六次多賀城市総合計画進捗状況報告)とは
 - (1) 施策別評価の概要
- 2 全体の動向
 - (1) 将来都市像指標の動き
 - (2) 指標全体のうごき(施策・基本事業別)
 - (3) 政策別の指標全体のうごき(施策・基本事業合計)
 - (4) 指標全体の目標達成度(施策・基本事業別)
 - (5) 政策別の指標全体の目標達成度(施策・基本事業合計)
- 3 施策・基本事業の動向(成果指標等一覧)
 - (1)施策・基本事業評価の見方

政策1	みんなの力で減災 安全で安心に暮らせるまちづくり(安全安心)
政策2	健やかで優しい 支え合いのあるまちづくり(健康福祉)
政策3	夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり(教育文化)
政策4	都市と自然の環境調和 快適で潤いのあるまちづくり(生活環境)
政策5	地域の資源と知恵をいかす 活気あふれるまちづくり(産業活気)
政策6	地域の未来を共に創る 絆と誇りを築くまちづくり(地域創生)
政策7	縮減社会への対応 持続可能な行財政経営(行財政経営)

Ⅳ 多賀城市まちづくり報告書(第六次多賀城市総合計画進捗状況報告)

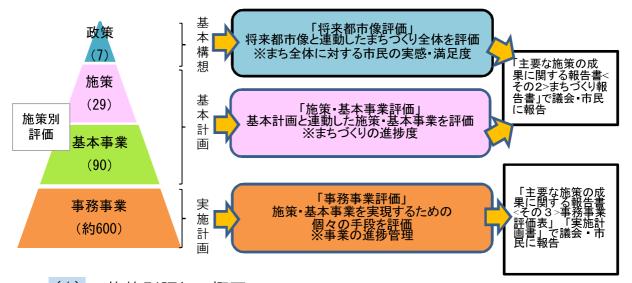
(3) 多賀城市まちづくり報告書(第六次多賀城市総合計画進捗状況報告)とは

多賀城市まちづくり報告書は、総合計画の目指すまちの姿の実現に向けて、まちづくりがどの程度進んでいるのか、事業の成果は上がっているのかといったことを示すため、令和3年度の決算を踏まえて、まちづくりの成果報告書として作成しています。

施策、基本事業における成果指標の推移を踏まえた成果状況等の結果を「施策別評価」として示すことで、総合計画の進捗状況等を明らかにしています。

また、複数年での指標の推移を確認することにより、指標のうごきが外的要因による突発的なものなのか、社会情勢の変化等による必然的なものなのかを見る目安となり、限られた行財政経営 資源の「選択と集中」及び行政活動の「改革と改善」への活用が期待されます。

一般的には、事務事業の成果が向上することで基本事業の成果が向上し、基本事業の成果が 向上することで施策の成果が向上する仕組みになっています。



(1) 施策別評価の概要

① 施策別評価とは

施策別評価は、階層分けした施策及び基本事業について、指標の推移を踏まえた成果状況やその原因分析等の評価結果を施策ごとに示すものであり、これにより総合計画の 進捗状況等を明らかにするとともに、その評価結果を次の施策や事業展開に活かしていく こととしています。

施策や基本事業に対して、その目的がどの程度達成されたのかを測るものさしとして「指標」を設定し、成果状況を数値で表すことで、総合計画の進捗状況や事業の成果状況を客観的に把握し、分析していくこととしています。

② 指標のうごきからみるまちづくりの状況

施策・基本事業の指標の動向を前期基準値に対する「指標のうごき」で捉えるとともに、 指標の令和7年度前期目標値に対する「目標達成度」を捉えることとし、これらをもとに総 合計画の進捗状況を示しています。

(4) 施策・基本事業評価の見方

政策 01 みんなの力で減災 安全で安心に暮らせるまちづくり

施策の成果状況は、左側のページ となるよう調整しています。

施策 01 防災・減災対策の推進

施策の目指す姿

大規模災害の経験をいかし、みんなの力で災害に強いまちが形成されることで、安全・安心に暮らすこと ができています。

【指標の区分】

目指す姿の実現具合を測るものさしとして設定している指標は、その特性により次の3つに区分しています。

成果:目指す姿の達成度を示すもの

社会: 事業状況を指標化したものの、行政の関与よりも社会経済情勢等の影響が大きいもの

代替:成果の指標化が難しい場合に、代替指標として行政の活動量等を設定したもの

【取得方法】

市民アンケート:毎年定期に市民3,000人を対象に行う多賀城市まちづくりアンケートにより取得する方法

職員アンケート:毎年定期に職員を対象に行うアンケートにより取得する方法

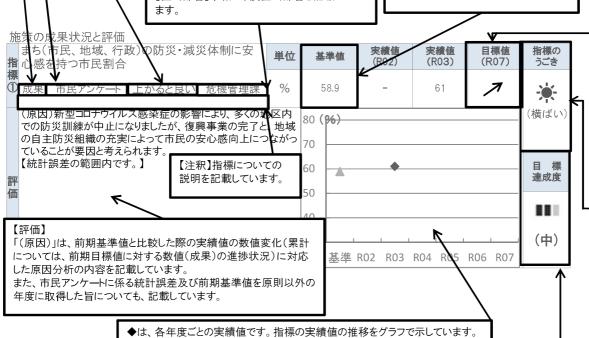
業務取得:業務内で取得する方法

課 独 自 調 査:指標を取得するために各課等が行うアンケート等により取得する方法

【指標特性】 上がると良い:数値が上がると良い指標 下がると良い:数値が下がると良い指標 そ の 他:数値の増減で良し悪しを判断できない指標 【担当部署】令和4年度担当部署を記載してい ます。

【前期基準值】

原則として、次のような取得年度となっ ています。これ以外の年度に取得してい る場合には、評価欄に記載しています。 市民アンケート、職員アンケート指標: 令和2年度に取得 業務取得、課独自調査指標:平成31 年度に取得



▲は、前期基準値及び令和7年度の前期目標値を示しており、目標値が数値の場合には、前期基準値から前期目標値 への方向性をラインで示しています。目標値が矢印の場合は、前期基準値のみの表示となっています。

【掲載している施策・基本事業は、掲載例です。実際の内容とは異なります。】

基本事業の成果状況は、はじまりが右側 のページとなるよう調整しています。

施策評価と見方は 緒です。

基	本事業01 地域防災力の促進(自助・共助)						
指標	災害への備えをしている市民割合	単位	基準値	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R07)	指標の うごき
想		%	54.8	_	55.2	7	*
	(原因)新型コロナウイルス感染症の影響により、地区内での練、講演会等が中止となりましたが、家にいる時間が多くなっとなどから、家庭における備蓄品や非常持出品の見直し等がことが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】	っているこ	88 (%)	R03 R04	R05 R06	R07	(横ばい) 目標達成度 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

目標値は、次の3つのパターンで表わしています。

数値:業務データから現状値を把握するもの

矢印:目標値を数値で表しにくいもの(アンケートによる把握、取得方法変更等)と現状維持のもの ※アンケート指標については、統計誤差の関係があるため、方向性を矢印で表しています。

- :指標区分が「社会」のもの及び目標設定がなじまないもの

【指標のうごき】

前期基準値(又は取得初年度)と比較した際の令和3年度の成果指標のうごきを、次の区分により示しています。

なお、市民アンケートから数値を取得しているものは、一定の統計誤差を考慮しています。

- ☀(向上):数値(成果)が前期基準値(又は取得初年度)に比べ向上しているもの
- ☀ (横ばい):数値(成果)が前期基準値(又は取得初年度)に比べ微向上(横ばい)であるもの
- ○(横ばい):数値(成果)が前期基準値(又は取得初年度)に比べ微低下(横ばい)であるもの
- ◆(低下):数値(成果)が前期基準値(又は取得初年度)に比べ低下しているもの
- -:累計以外で前期基準値がないもの、令和3年度に実績値がないもの、指標特性が「その他」のもの、取得初年度のもの ※累計については、目標値に対する数値(成果)の進捗状況に応じて、区分しています。

【目標達成度】

成果指標の前期目標値への令和7年度(前期目標年度)を基準とした、達成度見込みを示しています。

- 🕍 (達成):前期目標値を達成しているもの
- (高):令和6年度までに達成する可能性が高いもの
- (中):令和7年度(前期目標年度)で達成する可能性が高いもの ・ (低):令和7年度(前期目標年度)で達成することが難しいもの
- 一:前期目標値が「一」のもの、令和3年度に実績値がないもの

(5) 施策・基本事業評価の動向

「政策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり

「施策 01 学校・家庭・地域の連携による教育力の向上

施策の目指す姿

学校・家庭・地域が連携し、子どもたちの学びを支える地域社会が形成されることで、子どもたちがいきいきと安全に暮らすことができています。

施策の成果状況と評価

#	学校 支え1	家庭・地域が 合う地域がつく	連携し、子ど られていると	もたちの豊かな育ちを 思う市民割合	単位	基準値	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R07)	指標のうごき
打枝包	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	38.6	_	37.3	7	
					(%) 70 _E					は横ばい
ii.	業を調整を	因)これまで学校 徒を支援する事: 実施してきました 大以前と比較し、 因の1つと考えら;	業や安全・安心 ニが、新型コロ 当該事業の実	i連携し地域ぐるみで児 な居場所を提供する事 けウイルス感染症の感 ☆施回数が減少したこと	60 – 50 –					目 標達成度
佰	【統言	計誤差の範囲内で	です。】 『す。】		30 - 20	基準 R	03 R04 R	05 R06 I	R07	(中)

基本事業01 学校・家庭・地域の教育連携・協働の推進

指	学校 合	・家庭・地域が	連携した取組	に参加している市民割	単位	基準値	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R07)	指標のうごき
指標①	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	16.4	_	12.4	7	
					(%) 50				÷s	(横ばい)
評	事業を 感染拡	生徒を支援する E実施してきまし 大以前と比較し	事業や安全・安 ルたが、新型コ ル、当該事業の	が連携し地域ぐるみでいな居場所を提供する ロナウイルス感染症の 実施回数が減少したこ	40 – 30 –					目標達成度
価	とが多 【統計	見因の1つと考え 誤差の範囲内で	られます。 『す。】		10 -		•			■ (中)
					0_	基準 R	03 R04 R	05 R06 F	R07	

基本事業01 学校・家庭・地域の教育連携・協働の推進

1		学校 <i>t</i> こと <i>t</i>	ごけでは得られば ができていると!	ない知識や経 感じている児	験を地域住民から学ぶ 童の割合(小学生)	単位	基準値	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R07)	指標のうごき
į	旨票2	成果	課独自調査	上がると良い	生涯学習課	%	77.3	_	73.8	7	
		教育活	動状況調査の 結	課		(%) 80 –					<u>a</u>
=		イルス	∃を支援する事業 〈感染症の感染拡	€を行ってきま は大以前と比較	が連携し地域ぐるみで したが、新型コロナウ し、当該事業の実施回	70 – 60 –	A .	•			(横ばい) 目標 達成度
	平	数が洞 【前期	成少したことが要 用基準値取得年度	程因の1つと考え をは、令和2年月	えられます。 度です。】	50					
	-					30	基準 R(03 R04 R	05 R06 I	R07	(中)

基本事業01 学校・家庭・地域の教育連携・協働の推進

4	<u> </u>		庭 地域以东	以月足污 励则以胜连			_	_		
指		だけでは得られば ができていると!	ない知識や経 感じている生	験を地域住民から学ぶ 徒の割合(中学生)	単位	基準値	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R07)	指標のうごき
指標③	成果	課独自調査	上がると良い	生涯学習課	%	80.9	_	66.3	7	
હ	教育活	舌動状況調査の網	丰果		(%) 90 -					
評	イルス数が派	⊧を支援する事業	きを行ってきま 大以前と比較 [因の1つと考]	とし、当該事業の実施回 えられます。	80 - 70 - 60 -		•			目標達成度
価	i				50 -					(中)
					40 L	基準 R	03 R04 R	05 R06	R07	(.1.)

基本事業02 青少年の健全育成

4	<u>"种争"</u>	未以 月少牛の	<u> </u>							
推		·年育成活動事業	(の延べ参加:	者数	単位	基準値	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R07)	指標の うごき
指標(1	代替	業務取得	上がると良い	生涯学習課	人/年	839		839	ላ	
U	令和	3年度から事業内	容に大きな変	更がありました。	(人/年)					
	(原	因) 令和3年度の	実績値が前期	基準値となります。	90	00				
評	ž				80	00	•			目標達成度
					70	00				
佃	i				60	00			-	ш
					50	基準	R03 R04	R05 R06	R07	(中)

政策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり

「施策 02 学校教育の充実

施策の目指す姿

児童・生徒の確かな学力、豊かな心、健やかな体が育まれることで、夢や希望が持てる充実した学校生活を送ることができています。

施策の成果状況と評価

#		学校ら	Ł活が楽しいと	思う児童割	合(小学生)	単位	基準値	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R07)	指標のうごき
村村	F	成果	課独自調査	上がると良い	教育総務課	%	92.3	_	88.3	7	
Q	孝	教育 活	動状況調査の結	果		(%) 100 ₁					3
ř	ا ا ا	(原因 りに取る は学材	り組むことがで	きているもの	向きに学習や友達づくの、新型コロナウイル学校行事の規模縮小なが要因と考えられます	92 84 76	*	•			様ばい
個	6					68 60	基準 R	03 R04 F	R05 R06 I	R07	(中)

指	学校会	生活が楽しいと	思う生徒割	合(中学生)	単位	基準値	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R07)	指標のうごき
指標②	成果	課独自調査	上がると良い	教育総務課	%	81	_	85.4	7	
۷	教育活	5動状況調査の結	果		(%) 100					*
評	(原因事の対したこと)	見模縮小など学校	運営に制限が	の影響により、学校行 がある中で、各校の工夫 に取り組むことができ	92 84 76	<u> </u>	•			目標達成度
価					68 60	基準 R	03 R04 F	R05 R06	R07	(達成)

基本事業01 確かな学力の育成

推		がわかると答え	る児童割合	(小学生)	単位	基準値	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R07)	指標のうごき
指標①	成果	課独自調査	上がると良い	教育総務課	%	90.3	_	88.1	7	
U	教育活	舌動状況調査の結	果		(%) 100 ₁					(ATT. 15.1.)
評価	の授業	引士が行う学び合	いの活動が制	の影響により、教室で 限されたため、低学年 因と考えられます。	92 84 76 68	A .	•			目標達成度
					60	基準 R	03 R04 F	R05 R06 I	R07	中

基本事業01 確かな学力の育成

2	~	个字 录	きひ! 惟かる子	刀切目戏							
:		授業	がわかると答え	る生徒割合	(中学生)	単位	基準値	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R07)	指標の うごき
1	指票2	成果	課独自調査	上がると良い	教育総務課	%	80.7	_	84.1	7	
1		教育活	舌動状況調査の結	課		(%) 100,					*
-	評	白習0	引士が行う学び合 D習慣づくりやタ	いの活動が制 ブレット端末	Eの影響により、教室で別限されましたが、自学を活用した学習を推進ことが要因と考えられま	92 84 76	<u> </u>	•			(横ばい) 目 標 達成皮
1	画					68 60	基準「	R03 R04 I	R05 R06	R07	(達成)

基本事業02 豊かな心の育成

<u>#</u>	平 尹 オ	そので 直がや心	<u>以 日 水、</u>							
推		校出現率			単位	基準値	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R07)	指標のうごき
指標①	代替	業務取得	下がると良い		%	2.4	_	2.8	7	
U	1ノレモー	上徒の問題行動・ を基に算出	不登校等生徒	指導上の諸課題に関する	(%) 10_		•			(C)
	(原屋	因)学校生活や家 商店や登校渋りと	ス庭生活に対す ・なる児童・生徒	る悩みや不安を抱え学 徒が増加しています。新	8					(横ばい
評	型コロ	コナウイルス感染 ア級活動や学校行	非症の影響によ	る学校活動の制限によ	6					目 模達成度
	築を	図ることが難しい	\環境にあるこ	とに加え、様々な不安のことが要因と考えられ	4		100.00			
佃	ます。	トレスによる影音	おが土している)ことが安囚と行んりれ	2	A	•			ш
					٥L					(中)
						基準	R03 R04 F	R05 R06 I	R07	

基本事業02 豊かな心の育成

指	再登	◇ ×								
1.50		~ '			単位	基準値	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	その他	教育総務課	%	19.8	_	35.2	_	
	児童生 調査を	・ 徒の問題行動・ を・ 基に算出	不登校等生徒	指導上の諸課題に関する	(%) 50_					
評価	(や教々な調原ス室なお香味のでである)	3)不登校児童・シャールソーンを カールソーシャル カールソーシャル の別室登校への で援を行ってきた 令和2年度まで 質目の変更により 度から算定基礎:	√ワーカーにより対応、心のケ ことが要因と 早調査を算定 算定が行えな	アハウスの運営など様 考えられます。 基礎としていたところ、 くなったことから、令 ともに、前期基準値につ	40 - 30 - 20 - 10 - 0	基準 R	D3 R04 R	05 R06 F	R07	目標達成度

基本事業03 健やかな体の育成

指		的生活習慣を身	トに付けてい	る児童割合(小学生)	単位	基準値	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R07)	指標のうごき
指標①	成果	業務取得	上がると良い	教育総務課	%	87.1	_	90.3	7	
U	全国等	学力•学習状況調	査の結果		(%) 100 ₁					*
評		や、適度な睡眠	ほを取ることと	伴い、朝食を毎日食べいった基本的な生活習 いった基本的な生活習 行ったことが要因と考	92 84	A	•			目標達成度
価					76 68 60	基準 R	03 R04 F	R05 R06 I	R07	(達成)

基本事業03 健やかな体の育成

	_	ry a		LL. 25 13 120							
#		基本的	的生活習慣を身	に付けてい	る生徒割合(中学生)	単位	基準値	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R07)	指標の うごき
才格で	製	成果	業務取得	上がると良い	教育総務課	%	81.7	_	87.8	A	
4	الع	全国学	4力•学習状況調	査の結果		(%) 100 ₁					※
	_		や、適度な睡眠	そ取ることと	伴い、朝食を毎日食べいった基本的な生活習行ったことが要因と考	92 84 76	<u> </u>	•			目標達成度
ſi	西					68 60	基準 F	03 R04 F	R05 R06 I	R07	(達成)

基本事業04 教育環境の保全と運営

Ē	_	ドナイ 坪業	及び学校生活に	· 古暗をきた	-			実績値	実績値	目標値	指標の
抖		12 * /	又0.于汉工冶15	- 文件ででた		単位	基準値	(R02)	(R03)	(R07)	指標の うごき
村村		成果	業務取得	下がると良い	教育総務課	件/年	0	-	0	0	
	7					(件/年))				*
	Ť	(原因	 ③)学校施設の維	 掛管理に当た	っては、定期的に施設	20					(横ばい)
	- 1	設備のなど、	O点検を行い、不 きめ細かい対応	「具合発生前に ふを行ったこと	: 0 には、足効的に心酸: 6 修繕箇所を手当てする が要因です。	16					
F	Ŧ	0 (C 17 MAR 1 7 JAG	, , , , , , , , , ,		12					目 標達成度
۱,						8					
佰						4					
						ا ه	基準 RC	3 R04 R	05 R06 F	R07	(達成)
L							æ+ m	o no- n	00 1100 1	107	

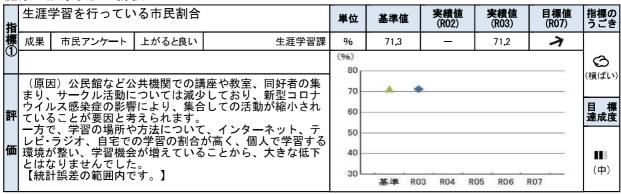
政策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり

|施策 03 生涯学習の促進

施策の目指す姿

生涯を通じて学び、活躍できる機会や場があることで、生きがいを持って社会に参加し、心豊かに 暮らすことができています。

施策の成果状況と評価



基本事業01 学びと発揮の機会の確保

=	- 17.5	*************************************	THO WY TO H	# PP			_			_
ŧ		習機会に満足して	いる市民割	合	単位	基準値	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R07)	指標のうごき
村村	成	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	88.3	_	86.2	7	
					(%) 90 –					ල
	17	レス感染症の影響で	5、対面での学	ており、新型コロナウ 智の機会が少なくなっ	80	_	•			(横ばい)
Ħ	۴ I — :	ヽることが要因と表 って、70歳以上を除	全く世代で満足	と答えた方の割合が増	70					目 標達成度
	一准。	*、多様な方法から	5選択ができる	含む学習環境の整備が ようになったことから	60					
ſī		てきな低下とはなり 統計誤差の範囲です	Jませんでした	-0	50 –					
			-		40 L	基準 R	03 R04 R	05 R06 I	R07	(中)

基本事業01 学びと発揮の機会の確保

=	<u> </u>						_	_		
推		成果を生かして	いる市民割	合	単位	基準値	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R07)	指標の うごき
指標②	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	66.4	_	65.8	7	
۷					(%) 80 –					S
評	た方の影響で	しましたが、地域 D割合が減少しま で、地域活動 - 社会 考えられます。	ば活動・社会活 ₹した。新型□ 会活動の機会:	いると答えた方の割合が 動に生かしていると答え ロナウイルス感染症の が減少していることが要	70	A	•			(横ばい) 目標達成度
価	抗	十誤差の範囲内で	『す。】		40					III (中)
					30 -	基準 R(3 R04 R	05 R06 I	R07	1

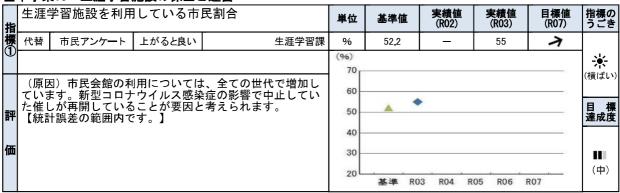
基本事業02 文化芸術の振興

ᅽ	54	木牛人	<u> </u>	の 恢ج							
‡		文化	芸術の直接鑑賞	[をしている]	市民割合	単位	基準値	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R07)	指標の うごき
持 村		成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	53.3	_	49.9	7	
	ע					(%) 70 –					(##.u#)
	_ \$	響で、 れます	^ド 高くなっていま 鑑賞の機会が少	ます。新型コロ なくなってい	ていないと答えた方の ナウイルス感染症の影 いることが要因と考えら	60 - 50 - 40 -	<u> </u>				(横ばい) 目 標 達成度
ſī	6					30				-	
						20	基準 RC	03 R04 R	05 R06 I	R07	(中)

基本事業02 文化芸術の振興

4	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>							
推		芸術活動をして	いる市民割	合口	単位	基準値	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R07)	指標の うごき
指標②	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	18.6	_	17.1	7	
۷					(%) 50_					8
評	┃的な务 ┃す。	₿りや芸能への参	隊加と答えた方	れ、また、地域の伝統の割合が減少していま	40 -					(横ばい) 目標 達成度
価	者の活	ロナワイルス® 舌動が減少してい 十誤差の範囲内で	ヽることが要因	、地域の行事や、高齢 lと考えられます。	20 – 10 –	•	*			建队及
					٥	基準	R03 R04 R	05 R06 I	R07	(中)

基本事業03 生涯学習施設の保全と運営



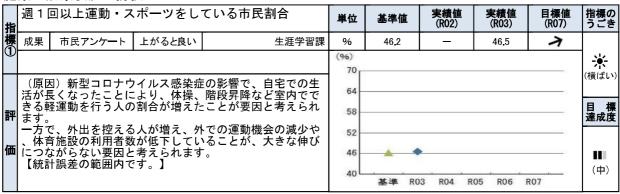
政策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり

|施策 04 市民スポーツ社会の促進

施策の目指す姿

運動・スポーツに親しむ機会や場があり、生涯を通じて、運動・スポーツの楽しさや感動を分かち合うことで、活力をもって暮らすことができています。

施策の成果状況と評価



基本事業01 スポーツ機会の確保

指	運動	• スポーツ機会	に満足して	いる市民割合	単位	基準値	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R07)	指標のうごき
指標①	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	81.7	_	82.1	7	
\cup					(%) 90 _E					*
	が増え	長くなったことに たことが要因と	より、自宅な 考えられます	の影響で、自宅での生 どで運動する人の割合	76	A	>			(横ばい) 日 標
評	【統計	H誤差の範囲内で	す。】		62 – 48 –					目 標 達成度
価					34					ш
					20	基準 RC	03 R04 R	05 R06 F	R07	(中)

基本事業01 スポーツ機会の確保

=	**************************************	<u> </u>	MAY WIFE IT							
非		ーツ等の教室・	大会の参加	者数	単位	基準値	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R07)	指標の うごき
指標②	代替	業務取得	上がると良い	生涯学習課	人/年	5,330	_	4,748	5,500	
2					(人/年					
	(原原	国)新型コロナウ 関の事業開催数が	 7イルス感染症 バ減少したこと	この影響により、社会体 が要因です。	4, 80	00	*		*	(低下)
評				212 - 7 0	3, 60	00				目 標 達成度
/=					2. 40					
佃	1				1. 20	00				(中)
						基準	R03 R04	R05 R06	R07	(-F)

基本事業02 社会体育施設等の保全と運営

		本育施設等の利	用者数		単位	基準値	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R07)	指標のうごき
指標①	代替	業務取得	上がると良い	生涯学習課	人/年	296,806	_	215,082	350,000	
U	市内公	公有社会体育施設	と及び学校開放	施設の利用者数です。	(人/年	, 000				
評価	こと#	B)新型コロナウ 別間があったこと が、要因と考えら	: や施設の利用	の影響により、施設の を控える傾向にあった	320 240 160	, 000	•			(低下) 目標達成度 ■■ (中)
						0 基準	€ R03 R04	R05 R06	R07	(4)

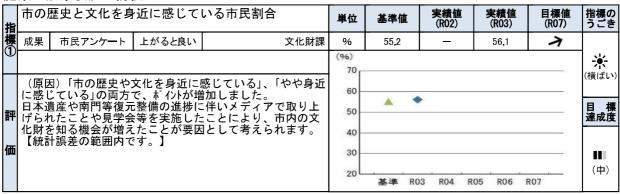
政策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり

|施策 05 文化財の保護と活用

施策の目指す姿

文化財が適切に保護・継承され、まちづくりに有効に活用されることで、市民が歴史と文化を身近 に感じることができています。

施策の成果状況と評価



基本事業01 文化財の調査・保存の推進

指		こ調査・保護さ	れた文化財	の件数	単位	基準値	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R07)	指標のうごき
指標①	代替	業務取得	その他	文化財課	件	188	_	244	_	
	ᄓᄓᄭᅜ)埋蔵文化財包蔵 ■請件数	地の届出等件	-数及び特別史跡内現状	(件) 250				-	
評	(原因の届出 が増減	図)住宅建築や宅 出件数が増加しま 或しますが、西部	した。住宅需 3地区での高し	り増加に伴い、発掘調査 需要に比例して届出件数 付住宅需要を反映し、近 いることが主な要因で	230 210 190	_	•			目標達成度
価					170 150	基準R	03 R04 F	R05 R06 I	R07	

基本事業02 文化財の活用促進

在	"个手	表以 人心的心	/							
井		されている文化	と財の面積		単位	基準値	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R07)	指標の うごき
指標(1	成果	業務取得	上がると良い	文化財課	m³	193,393	_	248,995	360,895	
Ú					(m²) 380	, 000				*
	(原が増	因)中央公園整備 加したことが主な	請地の供用開始 ♪要因です。	に伴い史跡の活用面積	304	, 000				(横ばい)
評		,,, o , c = c , o = 0	720 (7)		228	. 000				目 標 達成度
					152	, 000				
征	Ī				76	, 000				
						0 基準	E R03 R04	R05 R06	R07	(高)

基本事業02 文化財の活用促進

巫	<u> </u>	長02 又16期の	冶州化连				_	_		
指		所在の文化財等	詩問者数		単位	基準値	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R07)	指標の うごき
指標②	代替	業務取得	上がると良い	文化財課	人/年	135,009	_	81,434	170,000	
8					(人/年	, 000				*
	(原図	因)新型コロナウル 市内文化財等	7イルス感染症	この影響による外出自粛 会が減少したことが主	148	. 000				(低下)
評		因です。	אורס. כנחוולם. ב		126	. 000				目 標達成度
					104	. 000				
価					82	. 000	*		-	ш
					60	. 000 基準	E R03 R04	R05 R06	R07	(中)

基本事業03 文化財の普及啓発

_	<u> </u>									
指標①	市内所在文化財等の平均認知項目数			単位	基準値	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R07)	指標の うごき	
	成果	市民アンケート	上がると良い	文化財課	項目	8.06	1	7.8	ላ	
	(項目)									(横ばい)
評	(原因)新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛により、文化財を実際に目にする機会が減少し、記憶に残りにくいことが要因と考えられます。					8				
価	i				2 0	- 基準 R0	3 R04 R	05 R06 F	R07	(中)

4 事務事業の点検・評価

教育委員会において実施した事業のうち、令和3年度主要な施策(総合計画に定める「基本事業」に大きく貢献する事業。)21事業について点検・評価を行いました。

(1) 評価結果の概要

事業状況	事務事業数	成果向上	事務事業数
順調である	3 件	向上余地は小	7 件
概ね順調である	12件	向上余地は中	13件
順調ではない	6 件	向上余地は大	1 件
合 計	2 1 件	合 計	21件

(2) 令和3年度主要な施策一覧

教育委員会所管主要事業	
21事業	

	事業状況	上位	貢献
1	順調である	1	大
2	概ね順調である	2	中
3	順調ではない	3	小

- ●事業状況・・・事務事業の進捗状況について、当初予定と比較した状況となります。
- ●成果向上・・・事務事業を継続することにより、成果指標が今後も向上するのか、またはやり方を変えることにより成果向上が見込めないかどうかを検討します。

※主要事業とは、総合計画に定める「基本事業」に大きく貢献する事業です。

【政策3】 歴史・文化を継承し豊かな心を育むまち

No.	政策	施策	基本事	事務事業名	担当課等	R3年度 決算額	事業 状況	上位 貢献
			業			(千円単位)	R3	R3
1	03	01	01	地域とともにある学校づくり事業(地域学校協働活動事業)	生涯学習課	2,258	3	1
2	03	02	01	多賀城市·太宰府市中学生交流事業	教育総務課	50	2	2
3	03	02	02	たがじょう心のケア教育相談事業	教育総務課	15,870	2	2
4	03	02	03	学校給食調理事業	学校給食センター	442,863	2	2
5	03	02	04	小学校環境整備事業	教育総務課	488,325	2	2
6	03	02	04	中学校環境整備事業	教育総務課	231,248	2	2
7	03	02	04	小中学校通学区域適正化事業	教育総務課	0	3	2
8	03	02	04	小学校学校施設維持管理事業	教育総務課	175,501	3	2
9	03	02	04	学校ICT整備事業[小学校]	教育総務課	106,768	2	2
10	03	02	04	学校ICT整備事業[中学校]	教育総務課	53,083	2	2
11	03	02	04	地域とともにある学校づくり事業(コミュニティ・スクール事業)	教育総務課	173	2	2
12	03	03	03	文化センター管理運営事業	生涯学習課	143,632	2	2
13	03	03	03	文化センター改修事業	生涯学習課	7,889	1	1
14	03	03	03	市立図書館管理運営事業	生涯学習課	306,227	2	1
15	03	03	03	大代地区公民館改修事業	生涯学習課	3,068	1	1
16	03	04	01	東京2020オリンピック・パラリンピック関連事業	生涯学習課	795	1	3
17	03	05	01	埋蔵文化財調査受託事業(大区画ほ場整備促進事業)	埋蔵文化財調査センター	24,718	3	1
18	03	05	02	特別史跡多賀城跡復元整備事業	文化財課	317,192	2	1
19	03	05	03	地域とともにある学校づくり事業(民俗芸能体験事業)	文化財課	360	3	2
20	03	05	03	歴史遺産保全·発信事業	埋蔵文化財調査センター	8,721	2	2
21	03	05	99	特別史跡多賀城跡附寺跡保存活用計画策定事業	文化財課	0	3	1

	事業状況	兄	上位貢	献
指標		R3		R3
結果	順調である	3	小	7
加木	概ね順調である	12	中	13
	順調ではない	6	大	1

V 事務事業評価表(実施計画及び主要事業)

(3) 事務事業評価表とは

事務事業評価表は、基本事業を実現するための具体的な手段である「事務事業」について、上位施策の成果向上や目標達成に貢献しているか、より効果的な手法はないか、コストの妥当性や効率性はどうかといった項目について、年度ごとの予算・決算の状況を反映し、市が評価し、作成したものです。年度ごとに評価を行うことで、事業進捗状況を確認するとともに、事業における手段の改革、改善を検討することに繋がっています。

【第六次多賀城市総合計画の構成】 基 政策 「将来都市像評価」 将来都市像と連動したまちつくり全体を評価 本 構 (7) ※まち全体に対する市民の実感・満足度 「主要な施策の成果に関する報告書 〈その2〉まちづくり報告書」で議会・市民に報告 想 施策 (29)基 「施策・基本事業評価」 基本計画と連動した施策・基本事業を評価 ※まちづくりの進捗度 本 計 基本事業 画 (90)「主要な施策の成果に関する報告書<その3>」「実施計画書」で議会・市民に報告 実 「事務事業評価」 事務事業 施策・基本事業を実現するための 施 個々の手段を評価※事業の進捗管理 (約600) 計 画

○掲載事業

実施計画事業(※)及び主要事業(総合計画に定める「基本事業」に大きく貢献する事業)を掲載しています。

※ 実施計画とは

「実施計画」は、施策及び基本事業を実現するため、計画的に取り組む主要な事務事業を明らかにするもので、毎年度の予算編成や当面の行財政運営の指針とするものです。実施計画に掲げる事務事業は、「①重点テーマに大きく寄与する政策的な事務事業」、「②普通建設事業(国、県、市事業の負担金などを含みます。)」、「③公共施設の長寿命化対策等に資する事務事業」の基準に該当するものを対象とします。

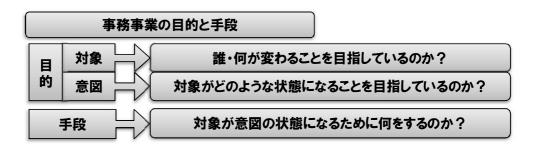
事業計画期間は、3年間ですが、社会情勢の変化が著しいことから、毎年度見直すこととしています。また、補正予算においても実施計画対象基準に該当する事業が計上されることから、実施計画事業を追加しています。

(4) 「事務事業評価」と評価表の見方

事務事業をより効果的、効率的に実施するためには、意図(事業実施により、対象をどのような状態にしたいのか)と対象(誰に対して事業を行うのか)を明確にすることが重要となります。

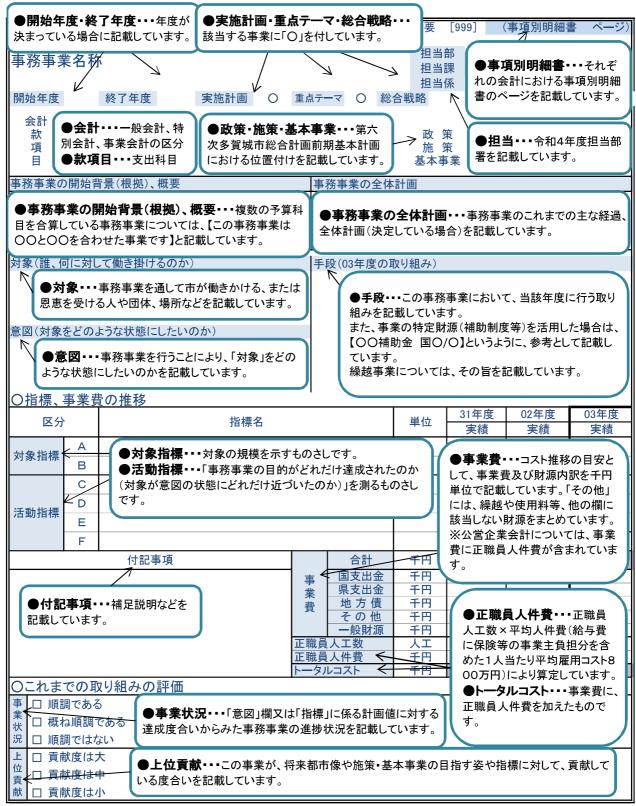
この報告書では、「事務事業評価」として、掲載事業の経過、当該年度の取組内容や指標及び事業費の推移、また、それを踏まえた評価結果を示しています。

これは、事務事業がどのような状態を目指しているのかと事務事業の成果をわかりやすく簡潔に表すための仕組みであり、また、事務事業の取組結果が将来都市像やまちづくりに貢献するかどうかを総合計画の体系の中で確認・検証し、次の施策展開に反映するための仕組みでもあります。



<事務事業評価表の見方>

基本事業を実現する手段である事務事業のうち、主要な事業について、事務事業評価により事業の全容を行政評価の視点で記載しています。「目的はまちづくりにつながっているか」「何をどの程度実施したか」「手段は目的達成のために適切か」「コストは適切か」といった視点で評価・検討を行い、業務改善へとつなげるものです。



点検・評価表(事務事業評価表) (5)

政 策 3

夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり(教育文化)

【施策】

- 学校・家庭・地域の連携による教育力の向上 学校教育の充実 生涯学習の促進 市民スポーツ社会の促進 文化財の保護と活用 3-1 3-2
- 3-3 3-4

- みんなの力で減災 安全で安心 に暮らせるまちづくり(安全安心)

【施策】

- 1-1 防災・減災対策の推進
- 1-2 防犯対策の推進
- 1-3 安全な消費生活の確保
- 1-4 交通安全対策の推進

地域の資源と知恵をいかす 活 気あふれるまちづくり(産業活気)

【施策】

- 農業の振興 5-1
- 5-2 商工業の振興
- 5-3 地域資源を活用した賑わいの 創出
- 健やかで優しい 支え合いのある まちづくり(健康福祉)

【施策】

- 2-1 地域福祉の推進
- 2-2 健康づくりの促進
- 2-3 子育て支援の充実
- 2-4 高齢者福祉の推進
- 2-5 障害者(児)福祉の推進
- 2-6 社会保障等の充実

地域の未来を共に創る 絆と誇り を築くまちづくり(地域創生)

- 地域経営の振興 多様な主体との連携・協働に よるまちづくりの推進
- 6-3 地域資源を活用した市民文化 の創造
- 都市と自然の環境調和 快適で 潤いのあるまちづくり(生活環境)

【施策】

- 4-1 自然と生活環境の調和
- 4-2 循環型社会の促進
- 4-3 良好なまちなみの保全
- 4-4 都市インフラの保全

縮減社会への対応 持続可能な 行財政経営(行財政経営)

- 適正な事務の執行と行政サー ビスの提供
- 組織・人事マネジメントの推 7-2
- 確全な企業経営の推進 環境変化に対応した行財政経 7-4 営の推進

地域とともにある学校づくり事業(地域学校協働活動事業)

担当部 教育委員会事務局 担当課 生涯学習課 担当係 社会教育係

開始年度 終了年度 実施計画 重点テーマ 総合戦略 \circ 会計 01 一般会計 款 10 教育費 잰 策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり

項 04 社会教育費 施 策 01 学校・家庭・地域の連携による教育力の向上 目 02 社会教育振興費 基本事業 01 学校・家庭・地域の教育連携・協働の推進

事務事業の開始背景(根拠)、概要 事務事業の全体計画 子どもを取り巻く環境が大きく変化しており、健やかな成長のためには、学校、家庭及び地域が役割と責任を自覚し、地域全体で教育に取り組む必要があります。そのため、学校・家庭・地域の連携・協働活動のより一層の充実を図るための体制を整備し、地域全体で子どもたちの成長を支えるとともに、地域住民の交流を通じて、地域の教育力向上と活性化を図ります。 平成20年度 家庭教育事 子ども教室推進事業開始 家庭教育事業(子育て講座等)、放課後 平成22年度 学校支援地域本部事業を開始 平成28年度 学校支援地域本部事業及び放課後子ど も教室推進事業を市内全区に拡大完了、地域教育力 向上事業(防災キャンプ)開始 令和4年度 学校支援地域本部の体制を基盤として地 域学校協働本部へ発展 ります。

対象(誰、何に対して働き掛けるのか)

地域住民、子ども、その保護者

意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

学校・家庭・地域の連携・協働した取組が実施される とにより、児童・生徒の学校の授業だけでは得られない知識・経験・能力が向上するとともに、学校を核と して地域全体の教育力向上及び地域の活性化が図ら れ、人と人、人とまちとがつながり、次代を担う子 どもたちが健やかに成長することができています。

手段(03年度の取り組み)

・地域学校協働活動推進体制の整備

- ・学校支援活動(市内全中学校区での学習補助、学校 ・子校又抜伯野い川バキエナストン・「日間で、 行事等への支援活動) ・放課後子ども教室(全小学校での放課後の安全・安心な環境のもとでの様々な体験活動)
- ・家庭教育支援活動(親子による「星を見る会」の実施

・地域教育力向上(防災キャンプ等) 【子供への学習支援によるコミュニティ復興支援事 業費補助金 県10/10】【宮城県学校・家庭・地域連携 協力推進事業費補助金 県2/3】【東日本大震災復興 基金繰入金】

○指標、事業費の推移

				単位	31年度	02年度	03年度	
<u> </u>	区分 指標名				平14	実績	実績	実績
対象指標	Α	児童·生徒数(5月1日現在)(共通指標)			人			4, 958
刈豕怕棕	В	多賀城市人口(共通指標)			人			61, 890
	O	地域学校協働活動実施回数			П			67
活動指標	D							
/ 白 刬 田 1 示	E							
	F							
		付記事項		合計	千円			2, 258
				国支出金	千円			
			事	県支出金	千円			2,075
			事業費	地方債	千円			
				その他	千円			50
				一般財源	千円			133
			正職	員人工数	人工			1. 45
			正職	員人件費	千円			11,600
			トー	タルコスト	千円			13, 858

〇これまでの取り組みの評価

業状況	概ね順調である 順調ではない	では、 では、 では、 では、 ではないと で
事	順調である	地域・学校等の担当者との会議の回数を増やし、連携を密にしたことから、新型コロナウ

■ 貢献度は大 位

献

本事業により学校支援活動等を通して地域の人々が学校や児童・生徒への関わりを強め、 それを契機として学校・家庭・地域の連携が高まり、学校を核として地域全体の教育力の 向上と地域の活性化が期待できることから、上位貢献は大と考えています。 □ 貢献度は中 □ 貢献度は小

主要 [1403] (事項別明細書 94ページ)

多賀城市 - 太宰府市中学生交流事業

担当部 教育委員会事務局 担当課 教育総務課 担当係 学校教育係

終了年度 実施計画 総合戦略 開始年度 重点テーマ

会計 01 一般会計

款 10 教育費 03 中学校費 項

02 教育振興費

目

策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり 잰

策 02 学校教育の充実 施 基本事業 01 確かな学力の育成

事務事業の開始背景(根拠)、概要 事務事業の全体計画 平成17年に友好都市締結を行った太宰府市の中学生が、平成29年度から「ふるさと・夢プロジェクト」の「 ふるさと大使」として本市を訪れ、市内の中学校にお いて授業体験を行うなど中学生同士の交流を図って います。

教育目標の一つである「多賀城を知り多賀城を語れる 児童生徒の育成」のため、本市の中学生が太宰府市を 訪れ交流を図ります。

令和3年度~令和5年度 交流事業実施(太宰府市訪問 等)

対象(誰、何に対して働き掛けるのか)

市立中学校に在籍する生徒

意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

まちの歴史や文化を国全体の視点でとらえる体験を 通じて、両市の魅力や価値を知り、郷土愛を培うこ とができています。

手段(03年度の取り組み)

歴史的な関わりのある友好都市「太宰府市」の中学生 とオンラインで交流 ・事前に本市及び太宰府市の歴史や文化について学

- ・本市及び太宰府市の郷土について理解と関心を深
- ・本事業を通して学んだことを各学校ごとに、全校生徒へ報告 「新型コロナウイルス感染症による事業制限」
- ・太宰府市への訪問による交流について、オンラインに変更

【ふるさと多賀城応援基金繰入金】

○指標、事業費の推移

		· [] [] [] [] [] [] [] [] [] [₩ <i>/</i> -	31年度	02年度	03年度
区分	·	指標名			単位	実績	実績	実績
対象指標	Α	生徒数(5月1日現在)(共通指標)			人			1, 625
刈	В							
	С	太宰府市を訪問した生徒数			人			0
活動指標	D							
/口到]日1末	E							
	F							
		付記事項		合計	千円			50
				国支出金	千円			
			事 **	県支出金	千円			
			事業費	地方債	千円			
				その他	千円			50
				一般財源	千円			
				員人工数	人工			0.16
				員人件費	千円			1, 280
			トー	タルコスト	千円			1,330

〇これまでの取り組みの評価

る

業 ■ 概ね順調である **状** □ 順調ではない

新型コロナウイルス感染症の影響により、現地訪問はできませんでしたが、オンライン による交流を実施することができたことから、概ね順調であると評価しています。

□ 貢献度は大 上位

貢献

■ 貢献度は中 □ 貢献度は小 友好都市である太宰府市と本市の中学生の交流を深めることで、郷土に対する愛着心を育むことができているため、上位貢献は中と考えています。

主要 [2081] (事項別明細書 90ページ)

たがじょう心のケア教育相談事業

担当部 教育委員会事務局 担当課 教育総務課 担当係 学校教育係

開始年度 終了年度 実施計画 重点テーマ 総合戦略 \circ

会計 01 一般会計

款 10 教育費 項

目

01 教育総務費 02 事務局費

策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり 잰

策 02 学校教育の充実 施 基本事業 02 豊かな心の育成

事務事業の開始背景(根拠)、概要 事務事業の全体計画

児童・生徒の悩みや不安、ストレスなどを受けとめ包括的に対応するため、子どもの心のケアハウスを中心とした支援ネットワークを構築し、ケアハウス支援員、スクールソーシャルワーカー及びスクールカウンセラーによる相談支援を行います。

スクールカウンセラー導入 平成 9年度 心の教室相談員導入 平成10年度 平成22年度 スクールソーシャルワーカー導入 平成29年度 子どもの心のケアハウス設置(心の教室 相談員をケアハウス支援員に変更) 令和4年度 子どもの心のケアハウスの運営を委託

対象(誰、何に対して働き掛けるのか)

市内小中学校に通う児童·生徒、その保護者、教職員 、次年度就学を予定している児童

意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

児童・生徒に関する相談を受けることができる体制が 元皇、王体に関する相談を支わることができる時間が 構築され、子どもたちとその家庭が抱える問題、課題 の早期発見・解決につながることにより、次代を担う 子どもたちが夢や希望をもって、安心して学校生活 を送ることができています。

手段(03年度の取り組み)

- ・学校内におけるチーム体制の構築
- ・学校内におけるナーム体制の構築、文接 ・問題を抱える児童生徒への相談支援 ・関係機関等とのネットワークの構築、連携、調整 ・保護者、教職員等に対する支援、相談、情報提供 【みやぎ子どもの心のケアハウス運営支援事業費補 助金 人件費のみ県10/10】 【県スクールソーシャルワーカー活用事業委託金

県10/10】

〇指標、事業費の推移

			単位	31年度	02年度	03年度		
区方	区分指標名			里1世	実績	実績	実績	
対象指標	Α	児童·生徒数(5月1日現在)(共通指標)			人			4, 958
对 家阳棕	В							
	O	ケアハウス通所児童・生徒数(延数)			人			197
活動指標	D	相談件数(延数)	相談件数(延数)					1, 097
心到旧棕	Е	アウトリーチ支援回数(令和4年度から	,)		□			_
	F							
		付記事項		合計	千円			15, 870
				国支出金	千円			
			争業	県支出金	千円			10, 932
			事業費	地方債	千円			
				その他	千円			
				一般財源	千円			4, 938
				員人工数	人工			1
			_	員人件費	千円			8,000
			 -	タルコスト	千円			23, 870

○これまでの取り組みの評価

事	ш	順調である	
7		Francis Commission Com	

業 ■ 概ね順調である **状** □ 順調ではない

スクールカウンセラーの全校配置、スクールソーシャルワーカーの派遣、子どもの心のケアハウス事業の運営により、児童·生徒や保護者、学校等の相談支援·必要な支援へつなげる体制を構築していることから、概ね順調であると評価しています。

|□ 貢献度は大

況

位

献

■ 貢献度は中 □ 貢献度は小 児童生徒やその家庭が抱える課題を必要な支援につなぎ、夢と希望をもち安心して学校 生活を送ることができることから、上位貢献は中と考えています。

主要 [759] (事項別明細書 102ページ)

学校給食調理事業

担当部 教育委員会事務局 担当課 学校給食センター 担当係 学校給食センター

開始年度 終了年度 実施計画 重点テーマ 総合戦略

会計 01 一般会計

款 10 教育費 項

05 保健体育費 目 02 学校給食管理費

策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり 잰

策 02 学校教育の充実 施 基本事業 03 健やかな体の育成

事務事業の開始背景(根拠)、概要	事務事業の全体計画
学校給食法第8条により、学校給食実施基準に照らした適切な学校給食の提供を実施します。	平成27年度 経年劣化等により給食用食器を更新開始 中成30年度 小学校コースの給食用トレー更新、食 缶等順次更新開始 平成31年度 中学校コースの給食用トレー、食缶等 順次更新開始

対象(誰、何に対して働き掛けるのか)

市立学校の児童生徒

意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

適正な給食費のもと安全·安心で栄養バランスの取れた学校給食が提供されています。

手段(03年度の取り組み)

・専門業者(安全・安心な給食を提供するため、「学校給食衛生管理基準」と「大量調理衛生マニュアル」等の基準に基づく調理が実施できるもの)に外部委託によるセンター方式での給食調理の実施・給食食材は、産地明示、鮮度良好及び衛生的な食材納品と製造・保管・納入等の衛生管理状況が確認できる事業者を選定(納入時に栄養士等が食材の検査確

- 認等)
- ・可能な限り多賀城産品を選定し、郷土の食文化や 旬の食材を取り入れる食材調達を実施 【学校給食費徴収金】【電気等使用者実費徴収金】

○指標、事業費の推移

		七冊夕			単位	31年度	02年度	03年度
区分		指標名			- 単位	実績	実績	実績
対象指標	Α	児童·生徒数(5月1日現在)(共通指標)			人			4, 958
对 家怕保	В							
	C 食材の安全を確認した調達入札の実施				П			13
活動指標	D	給食調理従事者へ衛生講習の実施			□			3
心到旧棕	Е	地場産品の使用割合			%			12
	F							
		付記事項		合計	千円			442, 863
				国支出金	千円			
			事	県支出金	千円			
		事業費	地方債	千円				
				その他	千円			279, 416
				一般財源	千円			163, 447
				員人工数	人工			0. 95
			_	員人件費	千円			7, 600
			 - -	タルコスト	千円			450, 463

○これまでの取り組みの評価

事	順調である
子業状況	順調である 概ね順調である 順調ではない

天候不良等の影響から、地場産品の使用割合が例年よりも低くなりましたが、安全·安心で栄養バランスがとれた給食の提供を行えたことから、概ね順調であると評価していま

□ 貢献度は大 上位

貢献

□ 貢献度は小

安全·安心で栄養バランスが取れた給食を提供することは、健やかな体の育成に必要であるため、上位貢献は中と考えています。 ■ 貢献度は中

主要 [691] (事項別明細書 92ページ)

小学校環境整備事業

担当部 教育委員会事務局 担当課 教育総務課 担当係 教育総務係

終了年度 実施計画 重点テーマ 開始年度 総合戦略

会計 01 一般会計

目

款 10 教育費 項 02 小学校費

01 学校管理費

策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり 잰

策 02 学校教育の充実 施 基本事業 04 教育環境の保全と運営

事務事業の開始背景(根拠)、概要

【この事務事業は、学校環境整備事業[小学校]及び[各小学校]を合わせた事業です。】 小学校の設置者である多賀城市は、校舎等の施設の 環境の整備を実施し、不具合のない教育環境を確保 する必要があります。

する必要があります。
令和2年度に策定した公立学校施設長寿命化計画に基 づき、計画的な学校環境の整備を行います。

事務事業の全体計画

令和2年度 公立学校施設長寿命化計画策定 令和2·3年度 小学校大規模改造(トイレ)工事(繰越) 、小学校図書館エアコン整備工事(繰越)

令和3年度 AED更新 令和4年度 特別支持 令和4年度 特別支援学級エアコン設置工事(多賀城 東小学校、多賀城八幡小学校)、多賀城小学校暖房機 設置工事

対象(誰、何に対して働き掛けるのか)

市立小学校の学校施設、児童、教職員

手段(03年度の取り組み)

・耐用年数を超過したAEDの更新・山王小学校普通教室改修工事

· 多賀城東小学校給水管更新工事

意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

教育環境が適切に維持管理されることで、安心な学 校生活を送ることができています。

令和2年度繰越事業

・小学校大規模改造(トイレ)工事 ・図書館エアコン整備工事 【学校施設環境改善交付金 国1/3】 【新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付 玉

【防災·減災·国土強靭化緊急対策事業債 充当率100

【学校施設整備事業債 充当率75%】

○ 指煙 事業費の推移

区分指標名					単位	31年度	02年度	03年度
<u>Δ</u> π		担保石			- 単位	実績	実績	実績
対象指標	Α	児童数(5月1日現在)(共通指標)	人			3, 333		
A) 外]日1示	В	小学校数	校			6		
	С	環境整備件数			件			3
活動指標	D							
/ 山 刬 田 1示	E							
	F							
		付記事項		合計	千円			488, 325
				国支出金	千円			193, 444
				県支出金	千円			
			事業費	地方債	千円			224, 342
				その他	千円			49, 729
				一般財源	千円			20, 810
			正職員人工数		人工			0. 25
					千円			2,000
			 -	タルコスト	千円			490, 325

〇これまでの取り組みの評価

ا ا≢		頂調	で	あ	る
------	--	----	---	---	---

業 概ね順調である **状** □ 順調ではない

計画的に学校環境の整備を行っていることから、概ね順調であると評価しています。

上位 □ 貢献度は大

貢献

■ 貢献度は中 □ 貢献度は小 学校環境の整備を行うことにより、児童が安心して学校生活を送ることができていることから、上位貢献は中と考えています。

主要 [698] (事項別明細書 92ページ)

中学校環境整備事業

担当部 教育委員会事務局 担当課 教育総務課 担当係 教育総務係

終了年度 実施計画 〇 重点テーマ 総合戦略 開始年度

会計 01 一般会計

款 10 教育費 03 中学校費 項

01 学校管理費

目

策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり 잰

策 02 学校教育の充実 施 基本事業 04 教育環境の保全と運営

事務事業の開始背景(根拠)、概要

【この事務事業は、学校環境整備事業[中学校]及び[各中学校]を合わせた事業です。】 中学校の設置者である多賀城市は、校舎等の施設の環境の整備を実施し、不具合のない教育環境を確保

環境の整備を表施し、不具合のない教育環境を確保する必要があります。 令和2年度に策定した公立学校施設長寿命化計画に基づき、計画的な学校環境の整備を行います。

事務事業の全体計画

令和2年度 公立学校施設長寿命化計画策定 令和2・3年度 中学校大規模改造(トイレ)工事(繰越) 、中学校図書館エアコン整備工事(繰越)

対象 (誰、何に対して働き掛けるのか)

手段(03年度の取り組み)

市立中学校の学校施設、生徒、教職員

意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

教育環境が適切に維持管理されることで、安心な学 校生活を送ることができています。

令和2年度繰越事業

17日2千尺保護事業 ・中学校大規模改造(トイレ)工事 ・図書館エアコン整備工事 【学校施設環境改善交付金 国1/3】 【新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付

金 国】 【学校施設整備事業債 充当率75%】

○ お 本 生 書 の 堆 移

	于不	其の推修 ニューニー						
区分	区分				単位	31年度	02年度	03年度
		1日1末1口		+12		実績	実績	実績
対象指標	Α	生徒数(5月1日現在)(共通指標)			人			1, 625
入] 外 1日1宗	В	中学校数	校			4		
	С	環境整備件数			件			2
活動指標	D							
/口到]日1末	E							
	F							
		付記事項		合計	千円			231, 248
				国支出金	千円			159, 006
			事業費	県支出金	千円			
				地方債	千円			32, 058
			Ą	その他	千円			40, 184
				一般財源	千円			
			正職」	員人工数	人工			0. 25
				員人件費	千円			2, 000
			 -	タルコスト	千円			233, 248

○これまでの取り組みの評価

重	ш	順調で	める

計画的に学校環境の整備を行っていることから、概ね順調であると評価しています。

□ 貢献度は大 上位

■ 貢献度は中 □ 貢献度は小

貢献

学校環境の整備を行うことにより、生徒が安心して学校生活を送ることができていることから、上位貢献は中と考えています。

主要 [1084] (事項別明細書 90ページ)

小中学校通学区域適正化事業

担当部 教育委員会事務局 担当課 教育総務課 担当係 学校教育係

開始年度 終了年度 実施計画 重点テーマ 総合戦略 \circ

会計 01 一般会計

目

款 10 教育費 項 01 教育総務費 02 事務局費

策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり 잰

策 02 学校教育の充実 施 基本事業 04 教育環境の保全と運営

事務事業の開始背景(根拠)、概要 事務事業の全体計画 平成25年度 学区検討会議の開催(4回。再編不要の 平成29年度 人口流動及び土地利用状況調査、意見交換会の開催(1回。再編不要の決定) 令和3年度 人口流動及び土地利用状況調査、庁内検討会議の開催 周辺環境の変化に応じた適切な通学距離と安全確保を念頭に、通学区域の再編について、調査・研究を進めていきます。 令和4年度 小中学校区検討会議の開催

対象(誰、何に対して働き掛けるのか)

手段(03年度の取り組み)

市立小中学校に通う児童・生徒、次年度就学を予定し ている児童、その保護者

意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

通学時における適正な通学距離と安全が確保される ことにより、子どもたちが安心して学ぶことのでき る環境が保たれ、心豊かに学び、育つことができて います。

- 人口動向や土地利用状況など通学区域の適正化に
- 関する情報収集 ・庁内関係課と通学区域の適正化に関する調査・研究 を行う庁内検討会議を開催

○ お煙 事業費の堆移

		ラ UフT圧化ター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			₩ /┴	31年度	02年度	03年度
区分		指標名			単位	実績	実績	実績
対象指標	Α	児童·生徒数(5月1日現在)(共通指標)	人			4, 958		
71 外161 床	В	新小学校1年生の児童の数(5月1日現7	人			548		
	O	庁内関係課との協議回数			П			2
活動指標	D	小中学校区検討会議の実施回数			П			_
/ 山 到 旧 1 示	E							
	F							
		付記事項		合計	千円			0
				国支出金	千円			
			争坐	県支出金	千円			
			事業費	地方債	千円			
				その他	千円			
				一般財源	千円			0
				員人工数	人工			0.45
				員人件費	千円			3,600
			トー	タルコスト	千円			3, 600

〇これまでの取り組みの評価

事業状況	順調である 概ね順調である 順調ではない	本市は、市民の転出・転入の件数が非常に多く、住宅地の小規模開発も増加しており、児童・生徒数の適切な予測が難しい現状があり、通学区域の適正化を図るための検証や、学校、保護者等への説明及び調整などに多くの時間を要する見込みであることから、順調ではないと評価しています。
F	貢献度は大	

貢献

位 ■ 貢献度は中 各小中学校の通学路について適正な距離と安全が確保されることで、子どもたちが安心 して学ぶことができる環境が保たれることから、上位貢献は中と考えています。 □ 貢献度は小

主要 [2072] (事項別明細書 92ページ)

小学校学校施設維持管理事業

担当部 教育委員会事務局 担当課 教育総務課 担当係 教育総務係

開始年度 終了年度 実施計画 重点テーマ 総合戦略

会計 01 一般会計

款 10 教育費 02 小学校費 項

目

01 学校管理費

策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり 잰

策 02 学校教育の充実 施

基本事業 04 教育環境の保全と運営 事務事業の開始背景(根拠)、概要 事務事業の全体計画

【この事務事業は、学校施設維持管理事業[小学校] と学校施設維持管理事業[各小学校6校]を合わせた事 業です。】 小学校の設置者である市は、校舎等の施設整備等を

実施し、教育環境の充実に努めなければなりません

児童が、快適に学習できるよう環境維持を図ります

対象(誰、何に対して働き掛けるのか)

市内小学校の学校施設、児童、教職員

意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

児童が、適切に維持管理された教育環境で学ぶこと ができています。

手段(03年度の取り組み)

- ・学校施設の適切な維持管理のため、光熱水費、施 設修繕、各種保守点検、機械警備、除草業務、樹木 剪定等を実施
- ・山王小学校普通教室改修工事に伴う机・椅子等の施

【公衆電話料・建物共済保険料・学校開放に伴う施設 整備維持徵収金】

令和2年度繰越事業

· 感染予防用消耗品購入

電子 (東京) 15 日本 (東京) 17 日本 (東京) 1 金 国】

○指標、事業費の推移

					単位	31年度	02年度	03年度
区分		指標名			平1年	実績	実績	実績
対象指標	Α	小学校数			校			6
A) 外]日1末	В	児童数(5月1日現在)(共通指標)			人			3, 333
	С	施設修繕件数			件			151
江新七 播	D	保守点檢委託件数			件			5
活動指標	Е	業務委託件数			件			18
	F							
		付記事項		合計	千円			175, 501
				国支出金	千円			1, 900
			事業費	県支出金	千円			
			書	地方債	千円			
				その他	千円			8, 470
				一般財源	千円			165, 131
				員人工数	人工			0. 25
				員人件費	千円			2,000
			卜一 :	タルコスト	千円			177, 501

○これまでの取り組みの評価

事	順調である
業	順調である 概ね順調である

適切な学校の維持管理は行えているものの、施設の老朽化が進んでいることにより修繕

状 ■ 順調ではない 箇所が増えているため、順調ではないと評価しています。

□ 貢献度は大 上位

貢献

■ 貢献度は中 □ 貢献度は小

学校環境の保全を行うことにより、生徒が安心して学校生活を送ることができることから、上位貢献は中と考えています。

主要 [2073] (事項別明細書 92ページ)

学校 I C T 整備事業 [小学校]

担当部 教育委員会事務局 担当課 教育総務課 担当係 教育総務係

終了年度 実施計画 重点テーマ 総合戦略 開始年度 \circ

会計 01 一般会計

款 10 教育費 項

02 小学校費 目 02 教育振興費

策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり 잰

事務事業の全体計画

策 02 学校教育の充実 施 基本事業 04 教育環境の保全と運営

事務事業の開始背景(根拠)、概要

教育の情報化を推進するため、政府において平成31 年度に「GIGAスクール構想」に基づく学校のICT環境整 備の推進、教員のICT活用指導力の向上等に取り組ん でいます。

児童が情報社会に主体的に対応できる「情報活用能力 」を身につけ、更なる学力向上につなげます。

平成27~30年度 校務支援システム・PC各校順次導入 平成31年度 文部科学省「GIGAスクール構想」開始 令和2年度 GIGAスクール構想に基づく児童生徒用端 末及びICT機器の整備、校内無線LANネットワーク導

今和3年度 生徒用端末、校内無線LAN本格運用 令和4年度 タブレット用印刷機の導入、校外学習用 Wi-Fiルーターの整備、ICT支援員の配置

対象(誰、何に対して働き掛けるのか)

小学校、児童

意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

ICTを活用して、児童が情報社会に主体的に取り組む 教育環境が整うことにより、子どもたちが、地域社 会で豊かに生きるための学びを得て、夢や希望を持 つことができています。

手段(03年度の取り組み)

- ・教育クラウドアプリケーション:学習での活用 ・Wi-Fi環境:安定した通信環境とセキュリティ確保 のための適正な保守管理
- ・端末(児童、教職員用):学習での活用、適正な保守 管理
- して、 ・ソフトウェア:新たに導入するアプリケーションの 教職員研修、プログラミング教育の研修、従前から 利用しているデジタル教科書の継続活用

○指標、事業費の推移

					単位	31年度	02年度	03年度
区分		指標名			里1丝	実績	実績	実績
対象指標	Α	小学校数			校			6
对 承扣标	В	児童数(5月1日現在)(共通指標)	人			3, 333		
C 授業及び学校生活に支障を来した不具合件数				数	件			0
江手,北,西	D	教育用パソコン配備台数			台			3, 660
活動指標	Е							
	F							
		付記事項		合計	千円			106, 768
				国支出金	千円			
			事 **	県支出金	千円			
		事業費	地方債	千円				
			その他	千円				
				一般財源	千円			106, 768
				員人工数	人工			0.35
				員人件費				2, 800
			卜一 :	タルコスト	千円			109, 568

〇これまでの取り組みの評価

順調	で	あ	る
	□ 順調	□ 順調で	□ 順調であ

業 ■ 概ね順調である **以** □ 順調ではない 授業等へ支障がないように、計画的に整備を実施していることから、概ね順調であると 評価しています。

上位 □ 貢献度は大

況

貢献

■ 貢献度は中 □ 貢献度は小

全国と同一水準の適切な学びの環境が整うことにより、児童が1人1台のタブレット端末を活用し学習に取り組むことができることから、上位貢献は中と考えています。

主要 [2075] (事項別明細書 94ページ)

学校 I C T 整備事業 [中学校]

担当部 教育委員会事務局 担当課 教育総務課 担当係 教育総務係

終了年度 実施計画 重点テーマ 総合戦略 開始年度 \circ

会計 01 一般会計

10 教育費 款 項

03 中学校費 目 02 教育振興費

策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり 잰

事務事業の全体計画

策 02 学校教育の充実 施 基本事業 04 教育環境の保全と運営

事務事業の開始背景(根拠)、概要

教育の情報化を推進するため、政府において平成31 年度に「GIGAスクール構想」に基づく学校のICT環境整 備の推進、教員のICT活用指導力の向上等に取り組ん でいます。

生徒が情報社会に主体的に対応できる「情報活用能力 」を身につけ、更なる学力向上につなげます。

平成27~30年度 校務支援システム・PC各校順次導入 平成31年度 文部科学省「GIGAスクール構想」開始 令和2年度 GIGAスクール構想に基づく児童生徒用端 末及びICT機器の整備、校内無線LANネットワーク導

今和3年度 生徒用端末、校内無線LAN本格運用 令和4年度 タブレット用印刷機の導入、校外学習用 Wi-Fiルーターの整備、ICT支援員の配置

対象(誰、何に対して働き掛けるのか)

中学校、生徒

意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

ICTを活用して、生徒が情報社会に主体的に取り組む 教育環境が整うことにより、子どもたちが、地域社 会で豊かに生きるための学びを得て、夢や希望を持 つことができています。

手段(03年度の取り組み)

- ・教育クラウドアプリケーション:学習での活用 ・Wi-Fi環境:安定した通信環境とセキュリティ確保 のための適正な保守管理
- ・端末(生徒、教職員用):学習での活用、適正な保守 管理
- して、 ・ソフトウェア:新たに導入するアプリケーションの 教職員研修、プログラミング教育の研修、従前から 利用しているデジタル教科書の継続活用

○ 指煙 事業費の推移

区分		指標名		出	31年度	02年度	03年度	
区方		指 標 名		単位 	実績	実績	実績	
北东北	Α	中学校数			校			4
対象指標	В	生徒数(5月1日現在)(共通指標)			人			1, 625
	O	授業及び学校生活に支障を来した不具	:合件	数	件			0
活動指標	D	教育用パソコン配備台数			行			1,821
/ 山 刬 汨 休	E							
	F							
		付記事項		合計	千円			53, 083
				国支出金	千円			
		事	県支出金	千円				
			事業費	地方債	千円			
				その他	千円			
				一般財源	千円			53, 083
			正職員人工数		人工			0. 35
				員人件費	千円			2, 800
			トー	タルコスト	千円			55, 883

〇これまでの取り組みの評価

ᅟ■ □ 順調っ	ぐ	あ	る
----------	---	---	---

業 ■ 概ね順調である **状** □ 順調ではない 授業等へ支障がないように、計画的に整備を実施していることから、概ね順調であると 評価しています。

上位 ┃□ 貢献度は大

■ 貢献度は中 □ 貢献度は小

貢献

全国と同一水準の適切な学びの環境が整うことにより、生徒が1人1台のタブレット端末を活用し学習に取り組むことができることから、上位貢献は中と考えています。

主要 [2082] (事項別明細書 90ページ)

地域とともにある学校づくり事業(コミュニティ・スクール事 業)

担当部 教育委員会事務局 担当課 教育総務課 担当係 学校教育係

実施計画 重点テーマ 総合戦略 開始年度 終了年度 \circ

会計 01 一般会計

款 10 教育費

項 01 教育総務費 目 02 事務局費

策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり 잰

策 02 学校教育の充実 施 基本事業 04 教育環境の保全と運営

事務事業の開始背景(根拠)、概要 事務事業の全体計画

国は、平成29年度、それまでの「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」への移行を提唱しました。また、保護者や地域住民が学校運営に参画する仕組みである学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の設置が努力義務化されました。学校運営協議会を設置し、地域と学校が連携・協働し、地域住民等の参画により地域全体で子どもたちをサラストのようにいます。

支える仕組みづくりを行います。

関係者の研修、協議、検討 学校運営協議会準備会の設置 学校運営協議会の設置 令和3年度 令和4年度 令和5年度

対象(誰、何に対して働き掛けるのか)

手段(03年度の取り組み)

教職員、 市内の児童・生徒、地域ぐるみ生徒指 導委員会、学校評議員

意図(対象をどのような状態にしたいのか)

学校運営に保護者や地域住民が参画し、 地域と一 子は理旨に体破自や地域住民が参問し、地域と一体となった特色ある学校づくりが行われることにより、みんなの力で、次代を担う子どもたちが成長し、人と人、人とまちとがつながることができています

- ・研修会の実施

・研修会の美地・コミュニティ・スクール先進地視察・コニティ・スクール先進地視察・関係者、PTA等との協議・先進導入校の検討・決定 【子供への学習支援によるコミュニティ復興支援事業費補助金 県10/10】

○ お 本 生 書 の 堆 移

区分		夏 ∪ / 1住 1夕			77 /T	31年度	02年度	03年度
区分		指標名			単位	実績	実績	実績
公会长 插	Α	多賀城市人口(共通指標)			人			61, 890
対象指標	В	児童·生徒数(5月1日現在)(共通指標)			人			4, 958
	О	研修会、ワークショップ等実施回数			口			3
活動指標	D	学校運営協議会(準備会)開催回数			П			_
心助伯标	Е							
	F							
		付記事項		合計	千円			173
				国支出金	千円			
		事	県支出金	千円			92	
			事業費	地方債	千円			
				その他	千円			
				一般財源	千円			81
			正職員人工数		人工			0. 26
				員人件費	千円			2,080
			 	タルコスト	千円			2, 253

〇これまでの取り組みの評価

■ □ 順調である

業 ■ 概ね順調である □ 順調ではない

学校運営協議会の設置に向けて、研修や視察を実施し検証を重ねていることから、概ね

順調であると評価しています。

□ 貢献度は大 上位

況

貢献

学校の運営に地域住民等が参画し、地域と一体となった特色ある学校運営を行うことで、次代を担う子どもたちを育むことができることから、上位貢献は中と考えています。 ■ 貢献度は中 □ 貢献度は小

主要 [782] (事項別明細書 96ページ)

文化センター管理運営事業

担当部 教育委員会事務局 担当課 生涯学習課 担当係 生涯学習係

終了年度 実施計画 開始年度 重点テーマ 総合戦略

会計 01 一般会計

款 10 教育費 項 04 社会教育費

策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり 施 策 03 生涯学習の促進 基本事業 03 生涯学習施設の保全と運営 02 社会教育振興費

事務事業の開始背景(根拠)、概要 事務事業の全体計画 平成22年6月 市民会館、中央公民館及び埋文センタ 昭和62年の開館以来、市直営で管理運営を行ってきましたが、民間企業が有するネットワークやノウハウを活用し、市民に対するサービス向上を目的に指 -の設置条例を改正 平成23年度 指定管理者による管理運営をJman 第1期 平成23年4月1日から平成28年3月31日まで 第2期 平成28年4月1日から令和3年3月31日まで 1年4月1日から令和8年3月31日まで 定管理者制度を導入しました。

잰

対象(誰、何に対して働き掛けるのか)

・市民

目

文化センター

意図(対象をどのような状態にしたいのか)

人生を豊かに生きるため、文化センター等において 、多様な文化芸術に触れることができ、また、様々 な文化活動を行うことができています。

手段(03年度の取り組み)

○指定管理者制度を導入し、民間企業が有するネットワークやノウハウを活用し、芸術文化の振興と施設の適切な維持管理を実施 展い週知な維持官理を実施 [指定管理者が行う業務] ・文化センターの運営及び施設・設備等の維持管理 ・市民会館及び中央公民館の施設・設備等の利用貸出 ・芸術文化事業の実施 [指定管理者の名称]

JM共同事業体(株式会社JTBコミュニケーションデザイン・三菱電機ビルソリューションズ株式会社) 【公立社会教育施設災害復旧費補助金 国2/3】

○令和4年福島県沖地震等に係る災害復旧工事の実施

〇指標、事業費の推移

		指標名		出八	31年度	02年度	03年度	
<u> </u>					単位	実績	実績	実績
対象指標	Α	多賀城市人口(共通指標)			人			61, 890
对 家怕保	В							
	O	開館日数			Я			295
注動 化插	۵	貸室提供数			室			24
活動指標	Ш	市民会館の自主・共催事業数			事業			48
	F							
		付記事項		合計	千円			143, 632
				国支出金	千円			507
		事	県支出金	千円				
			事業費	地方債	千円			
				その他	千円			
			一般財源	千円			143, 125	
				員人工数	人工			0.45
				員人件費				3, 600
				タルコスト	千円			147, 232

〇これまでの取り組みの評価

事	ш	順調でめる	

業 ■ 概ね順調である **以** □ 順調ではない

新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の一部が中止となっていますが、感染症 対策を行うとともに、施設の新たな活用方法を工夫して、多くの事業を実施しているこ とから、概ね順調であると評価しています。

□ 貢献度は大 位

況

貢献

■ 貢献度は中 □ 貢献度は小

市民会館での事業開催により、市民が良質な文化芸術に触れ、発表の機会や場が確保さ れることで多彩な生涯学習活動を行うことができることから、上位貢献は中と考えてい ます。

主要 [1081] (事項別明細書 96ページ)

文化センター改修事業

担当部教育委員会事務局担当課生涯学習課担当係生涯学習係

開始年度 終了年度 実施計画 □ 重点テーマ 総合戦略 □

会計 01 一般会計

款 10 教育費項 04 社会教育費

政 策03 夢と希望が輝く誰もが成長できるまちづくり施 策03 生涯学習の促進

目 02 社会教育振興費 **基本事業** 03 生涯学習施設の保全と運営

事務事業の開始背景(根拠)、概要

昭和62年に開館した文化センターも30年以上経過し、施設の老朽化が進むとともに、機械設備や舞台設備等の多くが機器の更新時期にも達していることから、計画的に整備する必要があります。
多賀城創建1300年を迎えるに当たって文化交流拠点として、また、災害時の避難所としての機能強化を図ることが求められています。

対象(誰、何に対して働き掛けるのか)

手段(03年度の取り組み)

文化センター(施設・設備)

意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

・文化センター改修設計業務委託 (令和3年8月20日~令和4年1月31日) ・アスベスト事前調査業務委託 (令和3年7月1日~同年7月30日) ・アスベスト調査業務委託 (令和3年10月28日~同年11月30日)

・) へへへ下調具表初安配 (令和3年10月28日~同年11月30日) 【地方創生推進交付金 国1/2】 【社会教育施設整備事業債 充当率90%】 【教育施設及び文化施設管理基金繰入金】

文化センターが安全・快適な状態に保たれています。

○指標、事業費の推移

区分		指標名			出	31年度	02年度	03年度
		担保石			単位	実績	実績	実績
対象指標	Α	文化センター			施設			1
刈水拍标	В							
	С	業務委託·修繕件数			件			3
活動指標	D	工事件数			件			0
/口到]]日1示	E							
	F							
		付記事項		合計	千円			7, 889
				国支出金	千円			3, 944
			事業	県支出金	千円			
			事業費	地方債	千円			3, 500
				その他	千円			445
				一般財源	千円			
				員人工数	人工			0.9
				員人件費	千円			7, 200
			トー	タルコスト	千円			15, 089

○これまでの取り組みの評価

O	<u>`</u> ~ ?	にまじの取り組	みの評価
事業状況		順調である 概ね順調である 順調ではない	令和3年度に予定していた改修設計業務は計画どおり完了したことから、順調であると評価しています。
上位貢献		貢献度は大 貢献度は中 貢献度は小	施設が安全で快適な状態に保たれることで、市民会館の各種事業が円滑に開催できるようになることから、上位貢献は大と考えています。

主要 [1212] (事項別明細書 96ページ)

市立図書館管理運営事業

担当部 教育委員会事務局 担当課 生涯学習課 担当係 生涯学習係

終了年度 実施計画 開始年度 重点テーマ 総合戦略

会計 01 一般会計

款 10 教育費 項 04 社会教育費

02 社会教育振興費

策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり 잰

施 策 03 生涯学習の促進

基本事業 03 生涯学習施設の保全と運営

事務事業の開始背景(根拠)、概要 事務事業の全体計画

昭和53年の開館以来、市直営で管理運営を行ってきました。施設の老朽化、市民に対するサービス向上(民間事業者が有するネットワークやノウハウの活用)へ対応するため、平成28年3月にJR仙石線多賀城駅前に移転開館し、指定管理者制度を導入しました。

平成28年3月 指定管理者管理による運営業務開始 第1期 平成28年3月21日から令和2年3月31日まで 第2期 令和2年4月1日から令和7年3月31日まで 令和4年4月 ブックスタートを開始

対象(誰、何に対して働き掛けるのか)

手段(03年度の取り組み)

市民

目

指定管理者制度の導入により、民間企業が有するネットワークやノウハウを活用し、読書活動の推進と施設の適切な維持管理を実施

意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

図書館が多くの市民の知との出会いの場として認識され、多様な楽しみ方のできる場として利用され、親しまれています。

- [指定管理者が行う業務]
 ・図書館の管理運営に関する業務
 ・施設及び設備の維持管理に関する業務
- ・図書館の事業及び講座に関する業務

[指定管理者の名称]

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社

○指標、事業費の推移

		指標名		単位	31年度	02年度	03年度	
国 医分 指標名 上 工					1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	実績	実績	実績
対象指標	Α	多賀城市人口(共通指標)			人			61, 890
刈水拍标	В							
	C	開館日数			Ħ			363
江新七 播	D	事業及び講座の開催回数			□			186
活動指標	Ш							
	F							
		付記事項		合計	千円			306, 227
				国支出金	千円			
			事業費	県支出金	千円			
			書	地方債	千円			
				その他	千円			
				一般財源	千円			306, 227
			正職員人工数		人工			1. 7
				員人件費	千円			13, 600
			├ ─:	タルコスト	千円			319, 827

〇これまでの取り組みの評価

ト ■ 貢献度は大 □ 貢献度は中 貢献

市立図書館が適切に維持管理され、民間企業が有するネットワークやノウハウを活用した運営がなされることで、市民が多くの学びを得ることができることから、上位貢献は 大と考えています。 □ 貢献度は小

主要 [2128] (事項別明細書 96ページ)

大代地区公民館改修事業

担当部 教育委員会事務局 担当課 生涯学習課

担当係 生涯学習係

開始年度 R03 終了年度 実施計画 ○ 重点テーマ 総合戦略

会計 01 一般会計

款 10 教育費 04 社会教育費 項 目 03 公民館費

策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり 政

施 策 03 生涯学習の促進

基本事業 03 生涯学習施設の保全と運営

事務事業の開始背景(根拠)、概要	事務事業の全体計画				
大代公民館が、公民館機能を十分に発揮するために	令和3年度 体育室天井照明LED化更新工事				
、施設の環境の整備を実施します。	令和4年度 屋上塔屋タラップ修繕工事				

対象(誰、何に対して働き掛けるのか)

手段(03年度の取り組み)

大代地区公民館(施設·設備)

意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

公民館体育室天井照明LED化更新工事(18灯) (令和3年9月24日~同年12月28日)

【みやぎ環境交付金 県】

施設・設備が適切に改修・修繕されることで、安全・安心に利用できる状態になっています。

	于木	其の推修 カー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						224
区分		指標名			単位	31年度	02年度	03年度
11保石					+ 14	実績	実績	実績
対象指標	Α	大代地区公民館			施設			1
	В							
	С	業務委託·修繕件数			件			1
活動指標	D	工事件数			件			0
/ 1 割 相 伝	E							
	F							
		付記事項		合計	千円			3, 068
				国支出金	千円			
			事	県支出金	千円			550
			事業費	地方債	千円			
			只	その他	千円			
				一般財源	千円			2, 518
			正職	員人工数	人工			0.05
				員人件費	千円			400
			 -	タルコスト	千円			3, 468

〇これまでの取り組みの評価

貢献

事業状況	順調である 概ね順調である 順調ではない	令和3年度に予定していた工事は計画どおり完了したことから、順調であると評価しています。
	貢献度は大	

位 口 貢献度は中 施設が安全で快適な状態に保たれることで、公民館の各種事業が円滑に開催できるようになることから、上位貢献は大と考えています。 □ 貢献度は小

東京2020オリンピック・パラリンピック関連事業

担当部 教育委員会事務局 担当課 生涯学習課 担当係 社会教育係

開始年度 H31 終了年度 実施計画 重点テーマ 総合戦略 R03 \circ

会計 01 一般会計

款 10 教育費

項 05 保健体育費 01 保健体育総務費 目

施

잰 策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり

策 04 市民スポーツ社会の促進

基本事業 01 スポーツ機会の確保

事務事業の開始背景(根拠)、概要 事務事業の全体計画 [聖火リレー]オリンピック競技大会に向けた気運を 日本全国で高めるために、全47都道府県で聖火リレーが実施されます。宮城県では、本市を含めた被災 沿岸自治体を中心に実施されます。 [ホストタウン]キューバ共和国野球代表チームが本 選出場となった場合、同国と交流のある仙台育英学 園並びに仙台市及び本市が合同で同代表チームの事 前合庭を呼け入れます。 [平成31年度]キューバ共和国と事前合宿受入れの協定締結、仙台市と共にホストタウンの登録、仙台市・仙台育英学園等と実行委員会設立、バレーボールの元キューバ共和国代表選手を招きトークショー及 びクリニックを開催 [令和3年度(令和2年度から延期)]聖火リレーの実施 前合宿を受け入れます。

対象(誰、何に対して働き掛けるのか)

手段(03年度の取り組み)

市民

意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

オリンピック・パラリンピックの気運が高まり、市民が世界レベルのスポーツに触れることにより、スポーツの楽しさや感動を分かち合いながら、幅広い世 代での交流が図られています。

聖火リレー

令和3年3月25日に福島県をスタートし 同年7月23日 の東京都を目指して、全国47都道府県を聖火ランナ ーが走行

①多賀城市走行日 令和3年6月20日(日)

②走行場所

JR仙石線多賀城駅北口広場から宮城県東北歴史博物

館まで(ランナー数17人) 【東京2020大会へ向けた気運醸成事業等補助金 県1

【東日本大震災復興基金繰入金】

○指標、事業費の推移

		指標名			単位	31年度	02年度	03年度
上	区分 指標名				- 単位	実績	実績	実績
対象指標	Α	多賀城市人口(共通指標)			人			61, 890
外承扣保	В							
	C	聖火リレーに係る事業進捗率			%			100
活動指標	D	ホストタウン交流事業数			件			0
心助伯保	Е	ホストタウン交流事業参加者数			人			0
	F							
		付記事項		合計	千円			795
				国支出金	千円			
			争業	県支出金	千円			292
			事業費	地方債	千円			
				その他	千円			503
				一般財源	千円			
				員人工数	人工			0.45
		_	員人件費	千円			3,600	
			トー:	タルコスト	千円			4, 395

〇これまでの取り組みの評価

貢献

業		順調である 概ね順調である 順調ではない	ホストタウン交流事業については、ホストタウン相手国が大会出場権を逃し、交流事業を実施できませんでしたが、聖火リレーについては、計画通り事業を実施できたことから、順調であると評価しています。
Г	П	貢献度は大	

位 口 貢献度は中 スポーツへの興味関心を高めるための有効な機会とはなったものの、時限的な事業であり、効果期間が極めて短かったことから、上位貢献は小と考えています。 ■ 貢献度は小

埋蔵文化財調査受託事業 (大区画ほ場整備促進事業)

担当部教育委員会事務局担当課埋蔵文化財調査センター担当係埋蔵文化財調査センター

会計 01 一般会計

款 10 教育費 項 04 社会教育費 **政 策** 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり **施 策** 05 文化財の保護と活用

目 06 埋蔵文化財調査センター費

基本事業 01 文化財の調査・保存の推進

事務事業の開始背景(根拠)、概要

調査面積:約67,400㎡(工事設計変更等による増) 調査期間:平成27~令和2年度(現地調査)

は場整備地内には山王遺跡など8か所の埋蔵文化財包蔵地が所在しており、ほ場整備事業により影響を受ける約53,000㎡を対象に、平成27年度に事業主体である宮城県仙台地方振興事務所と発掘調査に係る協定書を締結しました。これに基づき、各年度毎に受託契約を締結し、記録保存のための調査を実施しています。

調査別間: 予放21~5 和2千及(光地調査) 整理期間: 令和2~4年度(資料整理及び報告書作成) 調査実績

周年 兵糧 平成27年度:約11,300㎡、平成28年度:約16,500㎡ 平成29年度:約18,300㎡、平成30年度:約12,500㎡ 平成31年度:約 7,200㎡、令和 2年度:約 1,600㎡

対象(誰、何に対して働き掛けるのか)

手段(03年度の取り組み)

事務事業の全体計画

大区画ほ場整備計画地内に所在する埋蔵文化財包蔵 地(特別史跡を除く)

意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

令和2年度繰越事業 発掘調査報告書の作成

【埋蔵文化財発掘調査受託金10/10】

大区画は場整備事業が行われる範囲の埋蔵文化財が 適切に記録保存されています。 ※令和4年度へ繰越

〇指標、事業費の推移

<u> 〇指標、</u>	<u> </u>	質の推移						
区分		 指標名			単位	31年度	02年度	03年度
位力 指标石					干世	実績	実績	実績
分免长 插	Α	調査面積		m²	67, 400	67, 400	67, 400	
対象指標	В	報告書頁数		頁	_	_		
	С	調査面積の累計			m²	65, 800	67, 400	67, 400
江手, 北, 燕	D	作成頁数の累計			頁	_	_	_
活動指標	Е							
	F							
		付記事項		合計	千円			24, 718
			事業費	国支出金県支出金	千円			
			費	地方債その他	千円			24, 718
				一般財源	千円 人工			0.85
			_	<u>員人件費</u> タルコスト	<u>千円</u> 千円			6, 800 31, 518

○これまでの取り組みの評価

重	順調である
業	順調である 概ね順調である

現地調査は令和2年度に終了しましたが、膨大な調査成果をまとめた発掘調査報告書の作

状 ■ 順調ではない 成に時間を要し繰越で対応していることから、順調ではないと評価しています。 況

→ 貢献度は大

|位貢献

□ 貢献度は中 □ 貢献度は小

面積が広大なほ場整備事業に伴う遺跡調査とその発掘調査の結果を報告することにより 、当市の文化財が適切に記録保存されていることから、上位貢献は大と考えています。

特別史跡多賀城跡復元整備事業

担当部 教育委員会事務局

担当課 文化財課 担当係 文化財係

終了年度 実施計画 重点テーマ 総合戦略 開始年度 \circ

会計 01 一般会計

款 10 教育費 項

目

04 社会教育費 04 文化財保護費

策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり 잰

施 策 05 文化財の保護と活用 基本事業 02 文化財の活用促進

事務事業の開始背景(根拠)、概要 事務事業の全体計画 平成29·30年度 周辺整備等の検討及び実施設計、多 賀城南門及び周辺地区整備・活用基本方針策定 平成31〜令和5年度 地形修復造成工事、南門復元工 事、築地塀復元工事、政庁北端部地区整備 令和6年度 公開開始 多賀城創建1300年を迎える令和6年に向けて多賀城南 門等の復元を行います。

対象(誰、何に対して働き掛けるのか)

特別史跡多賀城跡附寺跡

意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

多賀城南門等が復元されることにより、多賀城ならではの個性となり、人々の交流が促され、市民の誇りの拠り所であるとともに多賀城らしい魅力の発信 拠点となっています。

手段(03年度の取り組み)

- 文化庁等関係機関と協議、関連事業との調整等実 施
- 他 ・南門復元工事、地形修復工事(造成、令和4年度へ 繰越)、記録映像制作業務、復元検討委員会の開催 、築地塀復元実施設計その2、復元工事監理 繰越)
- 、築地塀復元実施設計その2、復元工事監埋 〈令和2年度繰越事業〉 ・瓦製造業務、南門復元工事 ・地形修復工事(造成)、ガイダンス施設実施設計 【歴史活きき!史跡等総合活用整備事業 国1/2】 【文化財整備活用事業債 充当率90%】【東日本大震 災復興基金繰入金】【多賀城南門等復元事業等基金 繰入金】【史跡のまち基金繰入金】

○ 指煙 事業費の推移

区分		指標名			単位	31年度	02年度	03年度
「					平14	実績	実績	実績
対象指標	Α	特別史跡多賀城跡附寺跡面積			ha			107. 68
对 新田宗	В							
	С	検討委員会議の開催回数			旦			1
活動指標	D	事業進捗率			%			54. 29
/ 山 刬 田 1示	E							
	F							
		付記事項		合計	千円			317, 192
				国支出金	千円			155, 477
			事業	県支出金	千円			
			事業費	地方債	千円			138, 600
				その他	千円			23, 115
				一般財源	千円			
				員人工数	人工			1. 75
				員人件費	千円			14, 000
			トー	タルコスト	千円			331, 192

〇これまでの取り組みの評価

業	順調である 概ね順調である 順調ではない	文化庁補助金の採択額により進める事業ですが、国の予算の際など機会を捉えた申請によって一定の採択額を得られ、施行していることから、概ね順調であると評価しています。
.	音融度は大	

南門等を復元し一般公開することにより、市民の文化財保護及び継承の意識が高まるとともに、まちづくりへの有効活用が図られることで市民が歴史と文化を身近に感じる機会が増えることから、上位貢献は大と考えています。 □ 貢献度は中 貢献 □ 貢献度は小

地域とともにある学校づくり事業 (民俗芸能体験事業)

担当部 教育委員会事務局

担当課 文化財課 担当係 文化財係

開始年度 終了年度 実施計画 重点テーマ \circ 総合戦略

会計 01 一般会計

款 10 教育費

項 04 社会教育費 目 04 文化財保護費 잰 策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり

施 策 05 文化財の保護と活用 基本事業 03 文化財の普及啓発

事務事業の開始背景(根拠)、概要

民俗芸能である多賀城鹿踊は、明治26年には中谷地 地区の人々によって踊られていました。昭和54年11月、市制施行10周年を記念して、多賀城鹿踊の復活と併せて多賀城太鼓が創作されました。これらの保存会は、子どもから大人までの幅広い年代で構成され定期的な練習・発表等を行っています。

補助金を交付することで、こうした活動を支援しま

事務事業の全体計画

明治26年 中谷地地区の人々が多賀城鹿踊を踊る様子が八幡神社境内の石碑に刻まれる。 昭和54年 多賀城鹿踊の復活及び多賀城太鼓創作 平成23年度 多賀城八幡小学校3学年の「総合的な学 習の時間」の中で多賀城鹿踊の体験学習を開始

対象(誰、何に対して働き掛けるのか)

多賀城鹿踊保存会、多賀城太鼓保存会、児童·生徒、 地域住民

意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

民俗芸能である多賀城鹿踊及び郷土芸能である多賀城太鼓が次代を担う子どもたちに保存継承されることにより、先人から受け継がれてきた多賀城の個性を感じ、人と人とのつながりが意識され、豊かに表現されることで、多賀城らしい魅力を創ることができています。

手段(03年度の取り組み)

- ・ 多賀城鹿踊保存会及び多賀城太鼓保存会の活動を 支援するための補助金交付・普及啓発活動
- [[多賀城鹿踊保存会の活動]
- ・多賀城八幡小学校3学年の「総合的な学習の時間」内 で多賀城鹿踊の体験学習を支援
- [多質城太鼓保存会の活動] ・市内各種イベント等における多賀城太鼓の演舞披 露

〇指標、事業費の推移

		指標名			単位	31年度	02年度	03年度
区分		担保有				実績	実績	実績
対象指標	Α	多賀城市人口(共通指標)			人			61, 890
刈水拍标	В	児童·生徒数(5月1日現在)(共通指標)	標)		人			4, 958
	С	多賀城鹿踊保存会補助金額(活動支援))		千円			191
江新七 播	D	多賀城太鼓保存会補助金額(活動支援)	爰)		千円			191
活動指標	E	多賀城鹿踊保存会の活動回数			П			4
	F	多賀城太鼓保存会の活動回数	鼓保存会の活動回数					7
		付記事項		合計	千円			360
			+	国支出金	千円			
			事業費	県支出金	千円			
			費	地方債	千円			
				その他	千円			
			_	一般財源	千円			360
				員人工数	人工			0.2
			_	員人件費				1,600
			トータルコスト		千円			1,960

○これまでの取り組みの評価

重	順調である 概ね順調である
業	概ね順調である

学校や地域と連携し、普及・啓発を行い、担い手を確保することが必要であり、会齢化、後継者不足が課題となっていることから、順調ではないと評価しています。

状 ■ 順調ではない

□ 貢献度は大

位

貢献

■ 貢献度は中 □ 貢献度は小 多賀城鹿踊保存会及び多賀城太鼓保存会の活動を支援することにより、各種イベント等で披露する機会の増加に繋がり、次代を担う子どもたちの関心が高まり、民俗・郷土芸能が継承されることが予想されることから、上位貢献は中と考えています。

主要 [2101] (事項別明細書 98ページ)

歴史遺産保全 発信事業

担当部 教育委員会事務局 担当課 埋蔵文化財調査センター 担当係 埋蔵文化財調査センター

開始年度 終了年度 実施計画 〇 総合戦略 重点テーマ \circ

会計 01 一般会計

款 10 教育費 項 04 社会教育費

06 埋蔵文化財調査センター費 目

策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり 잰

施 策 05 文化財の保護と活用 基本事業 03 文化財の普及啓発

事務事業の開始背景(根拠)、概要

事務事業の全体計画

多賀城市の歴史、文化財に対する関心を高め、歴史 資産を適切に後世に伝えるために、これまで行って きた様々な調査をいかし、常設展示や歴史講座の開 催、刊行物の作成を行います。

昭和62~平成13年度 多賀城市の通史を展示 田州62 年版13年度 多貞城市の温史を展示 平成2年度 講座事業開始 平成14年度 常設展示を「古代都市多賀城」テーマ展示 に転換(東北歴史博物館との役割分担から) 平成19年度 埋蔵文化財調査センター体験館(多賀城 史遊館)を開館し、体験学習を開始 令和3~6年度 多賀城創建1300年に向けた連続企画展 実施

対象(誰、何に対して働き掛けるのか)

市内の歴史遺産、多賀城市民、多賀城市の歴史に関 心のある方

意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

地域と行政が一体となって、 文化財が適切に保存管 理され、文化財の普及・啓発がなされることにより、 人と人との温かな輪の中で、本市の悠久の歴史が紐解かれ、観光や産業に乗等の礎として新たな価値が 生まれ、多賀城らしい魅力を創ることができていま

手段(03年度の取り組み)

- ・「多賀城市の文化財」を刊行 ・企画展、記念講演会を開催(多賀城創建1300年に向 けた連続企画の第1弾)
- ・速報展、遺跡調査報告会、写真展及び資料展を開 催
- ・歴史講座(全4回)を開催 ・多賀城史遊館で通常の歴史体験学習に加え、歴史 関連のイベントを開催
- 、「多賀城市の歴史遺産 市川村 浮島村」「多賀城市の歴史遺産-補遺・総括編-」を刊行 【国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金 国1/2 】【ふるさと多賀城応接基金繰入金】【町誌市史等 売払】【体験学習・歴史講座実費徴収金】

○指標、事業費の推移

		指標名			単位	31年度	02年度	03年度
<u> </u>	区分 指標名				平位	実績	実績	実績
対象指標	Α	多賀城市人口(共通指標)			人			61, 890
对承拍标	В							
	O	展示室の開館日数			Ħ			277
活動指標	D	体験館の開館日数			目			281
心到旧保	Е	展示室の入館者数(年間)			人			3, 290
	F	体験館の入館者数(年間)						1, 205
		付記事項		合計	千円			8, 721
				国支出金	千円			1,034
			事業費	県支出金	千円			
			費	地方債	千円			
				その他	千円			7,621
				一般財源	千円			66
				員人工数	人工			1.8
			_	員人件費	千円			14, 400
			 -	タルコスト	千円			23, 121

Oこれまでの取り組みの評価

悪川	ш		
춒		順帆 (める 概わ順調である	

. 口 順調である

□ 順調ではない

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響から、入館者数が伸び悩んでいるものの、常設展に加え、4つの期間限定展示を滞りなく実施し、企画展・写真展の来館者アンケートにおいても良い評価を得ていることから、概ね順調であると評価しています。

□ 貢献度は大

況

位

貢献

■ 貢献度は中

市民が親しみやすい展示や魅力ある刊行物の発行、子どもたちが参加できる歴史体験イベントなどの継続により、文化財に対する関心が徐々に高まることから、上位貢献は中と考えています。 □ 貢献度は小

特別史跡多賀城跡附寺跡保存活用計画策定事業

担当部 教育委員会事務局

担当課 文化財課 担当係 文化財係

終了年度 実施計画 重点テーマ 総合戦略 開始年度 \circ

会計 01 一般会計

款 10 教育費 項

04 社会教育費 目 04 文化財保護費

策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり 잰

施 策 05 文化財の保護と活用 基本事業 99 施策の総合推進

事務事業の開始背景(根拠)、概要

特別史跡多賀城跡附寺跡が、文化的価値が保存され 、地域住民と共存・共栄しながら、市民が親しみ、利 用できる場所となることを目指し、適正な管理・活用 の指針となる計画として、「特別史跡多賀城跡附寺跡 保存管理計画」をこれまで第3次にわたり策定してき

第3次計画が計画満了を迎えることから、次期計画の 策定を進めています。

事務事業の全体計画

[特別史跡多賀城跡附寺跡保存管理計画]

・第1次計画期間 S51~S62 ・第2次計画期間 S63~H22 ・第3次計画期間 H23~R4

[特別史跡多賀城跡附寺跡保存活用計画] R2~R4 計画策定

R5∼ 計画運用

対象(誰、何に対して働き掛けるのか)

手段(03年度の取り組み)

特別史跡多賀城跡附寺跡保存活用計画

意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

特別史跡多賀城跡附寺跡の保存・活用等の取組に係る 基本的事項を計画に定め、計画を推進することにより、特別史跡を活用した多賀城らしい魅力が発信されるとともに、本市固有の歴史文化を次代に引き継ぐことができています。

・基本構想素案の検討 ・市川地区まちづくり会議開催(10月)

[新型コロナウイルス感染症による事業制限] 3回開催を予定していた市川地区まちづくり会議を、 1回のみ開催

○ 指標 事業費の推移

区分					単位	31年度	02年度	03年度
区分 指標名					平14	実績	実績	実績
対象指標	Α	特別史跡多賀城跡附寺跡面積			ha			107. 68
对 家阳棕	В							
	С	委員会開催回数			口			0
活動指標	D	計画策定数						_
/ 山 刬 田 1 示	E							
	F							
		付記事項		合計	千円			0
				国支出金	千円			
			事 **	県支出金	千円			
			事業費	地方債	千円			
				その他	千円			
				一般財源	千円			0
				員人工数	人工			0.2
			_	員人件費	千円			1,600
			 	タルコスト	千円			1,600

〇これまでの取り組みの評価

寭	順調である	
業	順調である 概ね順調である	新型コロナウイルス感染症の影響により、計画策定の第一歩である意見交換が十分に行
抝	順調ではない	えておらず、計画策定を延伸していることから、順調ではないと評価しています。
沈出		

■ 貢献度は大

位 貢献 □ 貢献度は中 当該計画策定により特別史跡の保存・活用の推進が図られ、本市固有の歴史文化が次代に引き継がれることから、上位貢献は大と考えています。 □ 貢献度は小

Ⅲ 学識経験者の意見

令和3年度教育委員会の点検及び評価に対する意見

元多賀城市立山王小学校長 當麻 哲 氏

1 学校・家庭・地域の連携による教育力の向上について

学校・家庭・地域の連携・協働での取組は、児童・生徒の学校では得られない知識、経験、能力が向上すると共に、地域のよさや郷土愛を育むものでもあり地域教育力の向上につながるものである。したがって、地域学校協働活動事業を推進していることはとても意義深いことである。しかしながら、新型コロナウィルス感染症の影響により、各種事業の回数が減ったり、縮小されたりしているとはいえ、児童・生徒が地域住民から学ぶことができていると感じている割合が低下していることはとても残念なことである。(まちづくり報告書の結果から)今後は、ウィズコロナ・アフターコロナを踏まえて事業内容を見直し、さらに事業を推し進めていくことを期待したい。

また、今後は、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と共にある 学校づくりを進めるための仕組み「コミュニティースクール」へと移行す ることになると思われることから、この動きに対応できるよう着実な取組 を進めていってほしい。

2 学校教育の充実について

学校施設の整備として、普通教室等のエアコンの設置やICT環境の整備、学校トイレの洋式化工事などを計画的に進めていることは、児童生徒や教職員にとって安全で快適な学校環境となっていることであり喜ばしいことである。しかし、老朽化が進んでいる学校も多いことから適切に修繕を施し、安全な学校施設の維持管理に努めていただきたい。

学校ICT整備事業が着実に進められていることは児童生徒が情報活用能力を身につけ、学力の向上につながるものだが、情報端末を有効活用して充実した授業が展開できるようにするためには、指導者の育成や教職員の指導力向上に向けた研修を充実させることは必要不可欠である。

「学校が楽しい」「授業がよく分かる」と答えた児童生徒は、80%以上と高い割合であることは喜ばしいことではあるが、その反面、不登校の割合は全国平均を上回っている。引き続き、学び支援教室、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、子どもの心のケアハウス等が密接に連携した対策を取ることと、心配される児童生徒と保護者へは早期の支

援を行い、教員への不登校対応等の研修も充実させることを期待したい。

3 生涯学習の推進について

新型コロナウィルス感染症の影響により、市民会館をはじめ、生涯学習施設の利用者が減少していたが、感染症対策や施設の新たな活用方法などを工夫して多くの事業を実施できるようになったことから、利用者が増加に転じたことは大変喜ばしいことである。しかし、70歳以上の世代の施設の利用は減少していることから、高齢者も安心して利用できるように、コロナ感染対策を施しながら、より魅力的な事業を展開し、学び続けることのできる機会の場、文化芸術の振興の場として、市民へのサービス向上を目指して進めてほしい。

4 市民スポーツ社会の推進について

やはり新型コロナウィルス感染症の影響により、社会体育事業の開催が減少し、施設の利用者数も減少していることは残念ではあるが、市民がスポーツに親しむことができる環境を提供することは、心身の健康の保持・増進を促し、人と人との交流にもつながることであることから、感染対策を十分に行い、多様なスポーツ事業を開催するなどして施設の利用促進を図ってほしい。

オリンピック・パラリンピックが1年延期され、新型コロナ感染症の影響も心配される中、聖火リレーを計画通りに実施できたことは喜ばしいことである。

5 文化財の保護と活用について

多賀城跡復元整備事業が順調に進んでいることはとても喜ばしいことである。復元される南門を含め特別史跡周辺一帯を多賀城跡として整備することを期待している。そして、整備事業だけでなく市の歴史や文化などについても市民だけではなく県内外の多くの人にも知ってもらうために、PR活動に力を入れ、多賀城の魅力をたくさん発信してほしい。

多賀城の歴史・文化・まちについて学ぶ機会を増やし、市の文化財を次世代に継承していくことの大切さを市民に理解していただくような取り組みや、郷土愛を育む教育を推進していくことを期待したい。

6 総括的意見について

令和3年度も新型コロナウィルスは収束することはなく、その影響がある中、学校教育、生涯学習、市民スポーツ、芸術や文化等のさまざまな事業をコロナ対策をしっかりと取りながら計画的に取り組んでいただいたことに感謝するとともに敬意を表したい。

コロナ感染症については、「新しい生活様式」が提唱され、影響が長期 化することも懸念されることから、「ウィズコロナ」の社会、新型コロナ ウィルスと共に生きることを念頭に、コロナウィルスの時代に即した新た な事業の取り組みに期待したい。

令和3年度教育委員会の点検及び評価に対する意見

元多賀城市立高崎中学校長 横橋 健 氏

1 学校・家庭・地域の連携による教育力の向上について

順調ではないとの評価であるが、コロナというパンデミックの下、感染に気を付けながら実施してきたことは評価したい。特に、防災キャンプが 大代地区で、コロナ禍でも実施されたことは素晴らしい。

学校支援地域本部を発展させ地域学校共同本部の設置により、より多くの地域の方が学校にかかわりともに子どもたちの教育を進めていけると思われる。

放課後の子どもたちの活動も制限されている中、子ども教室が成果を上げている。

ぜひ、東小・八幡小でも実施をすることを検討して欲しい。

2 学校教育の充実について

確かな学力が小学校で微減、中学校でやや増加しており、学校生活を楽しいと思う割合と連動している様子が見受けられる。学校生活が楽しいかどうかは友人関係が大きなウエイトを占めることは想像出来るが、一方、学校生活の7~8割の時間を授業が占めており、授業が分かることも大きな要因であろう。授業のようすが今大きく変化しており、タブレットや電子黒板等を活用し、個別の課題に対応出来る授業へと転換が求められている。今後、より一層分かる授業に取り組んで欲しい。

また、不登校の児童生徒の増加も懸念される課題の一つである。再登校率が上がっているのは、心のケアハウスの運営等、これまでの取り組みの成果であると評価したい。また、学校の様々な設備の改善が進んでいることは誠に喜ばしい。エアコンの設置やトイレの改修など、児童生徒がより快適に学校生活を送れるような取り組みがなされていることに感謝したい。

3 生涯学習の推進について

文化センター、市立図書館に関しては順調に運営されていることがうかがえる。今後、さらなる発展に期待したい。

学びの機会や発揮の機会がほぼ横ばいであることは、コロナ禍にもかか わらず、なんとか活動をしたいという行政を始めとした市民の取り組みの 成果であろう。 また、高齢の方の学習機会や文化芸術の振興等の値が下がっているが、 コロナに感染すると高齢者、特に持病のある方の重症化リスクが高くなる との知見があるため、高齢者が感染を避けるため外出やイベントへの参加 を見送っていることが原因の一つであろう。コロナが落ち着いてくれば、 以前より達成度は上がると思われる。今後も同様に取り組んでいただきた い。

4 市民スポーツ社会の推進について

スポーツ教室、大会の開催が低下し、社会体育施設の利用者数も減少している。これもここ数年のコロナの影響であろう。そのような状況の中でも、スポーツに親しむ市民の数は、大きな変化がない。これは健康志向が市民に浸透しており、自主的に健康作りのためのスポーツに親しんでいる市民が多いと言うことを表しているのだろう。

"アフターコロナの時代"にふさわしいスポーツ社会の創出を見据え、 今後の事業展開に期待したい。

5 文化財の保護と活用について

2024年の多賀城創建1300年に向けて、南大門の復元工事及び周辺整備も順調に進んでいることは喜ばしい。また、近年、多賀城市で開発が進んでおり、その結果保存される史跡が増えている。多賀城市民が本市の歴史を理解し、尊重する意識を高める様な企画展が東北歴史博物館等と連携してできないだろうか。

また、せっかく元NHKのアナウンサーの松平さんが多賀城市の歴史等について紹介している動画が、YouTubeへアップされているのだから、市のホームページから誘導のバナーをつけるなどしてほしい。普及啓発への取り組みのさらなる工夫が求められる。

6 総括的意見について

このところのコロナ禍による事業の停滞が見受けられているが、その中でも児童生徒や市民の方の生活は停滞が許されない。そのことを踏まえて、市民の方の安心・安全を第一に考え、行政として精一杯取り組んできていることがうかがえ、このことを高く評価したい。

また、ここ数年の多賀城市の学校教育の大きな課題として、不登校生徒

の増加がある。また、発達障害と思われる児童生徒も増加していると考えられる。幼少期における育てにくい子どもの保護者への支援を積極的に行うことで、子どもたちが安心して生活出来るようになる手助けをお願いしたい。ぜひ、子育て支援等担当部署と連携し、幼児期から中学生までの行政による支援や民間の力の活用を通して、保護者への啓発と支援を行うことで、将来の不登校や授業への取り組みの改善につながるのではないかと考える。ぜひ検討願いたい。

IV 資料

多賀城市教育基本方針

教育基本法の精神に基づき、

ひろい心、健やかな体、豊かな人間性と創造力を備えた児童 生徒の育成を目指し、幅広い知識と教養を身に付け、真理と正 義を求める心を持ち、自主・自律と公共の精神に満ちた人格の 形成を図る。

あわせて、市民が「日々のよろこびふくらむまち 史都 多 賀城」の実現に向け、夢と希望が輝く、誰もが成長できるまち づくりのために活動できる環境整備に努める。

令和3年度教育重点目標

1 学校・家庭・地域の連携による教育力の向上

子どもの健全な育成のためには、学校、家庭、地域などの多様な主体がそれぞれの特性・能力を 生かしながら、互いを尊重しつつ、対等な立場で協力しあい、ともにその環境づくりに取り組んで いく必要がある。

令和3年度は、学校支援活動や放課後子ども教室の運営をより一層連携推進するために地域学校 協働本部を設立するとともに、家庭教育支援チーム等と連携しながら家庭教育事業に取り組むこと で、地域全体の教育力の向上を目指す。

このため、次の施策を行う。

- (1) 学校・家庭・地域の教育連携・協働の推進
 - 地域学校協働本部を設立し、本市協働教育事業のより一層の連携・情報共有
 - コミュニティ・スクール (学校運営協議会) 構想の推進
 - 学校支援活動の実施及び地域コーディネーター、学校支援ボランティアの育成、活動支援
 - 地域教育力向上事業の実施(防災キャンプ等)
 - 放課後子ども教室の実施及び運営スタッフの育成、活動支援
 - 家庭教育支援チーム等と連携しながら家庭教育事業の実施
 - 地域における教育相談・就学相談窓口の広報と活用
- (2) 青少年の健全育成
 - 街頭巡回指導の実施
 - ジュニアリーダー、次世代リーダーの育成支援
 - 青少年活動団体への補助
 - 新成人を励ます成人式の実施

2 学校教育の充実

学校の教育力を高め、理解の進む授業が受けられることで、児童・生徒が「確かな学力」を身につけ、基本的生活習慣や健康などに関する知識を習得することで「健やかな体」を養い、気軽に相談できる環境を整えることで「豊かな心」が育まれることにより、児童生徒が安全・安心な学校生活を送れることを目指す。

児童生徒一人ひとりが個別最適化され、創造性を育む教育 I C T 環境の実現を目指す「G I G A スクール構想」の実現に向け、これからの情報社会に主体的に取り組みことができる児童生徒の育成を目指す。

また、教員についても、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた各教科等の指導におけるICTの活用を促進する。

東日本大震災以降、市内小中学校における不登校児童生徒の出現率は全国平均を上回っており、 早期の対策が求められていることから、不登校の未然防止と早期対応が図られるよう、家庭、学校、 地域及び関係機関との連携や教育相談体制の更なる充実を図る。

また、発達に遅れは見られないものの、特別な教育的支援を必要とする児童生徒が増加しており、適切な支援が受けられるよう早期からの情報提供や教育相談のさらなる強化を図るとともに、各種 支援員等の人的配置を継続するほか、専門機関と密接に連携することで、個に応じた指導を充実す る。

児童・生徒が安全で安心な学校生活を送ることができるよう令和2年度に策定した公共施設等管理運営個別計画に基づき、学校施設の老朽化対策を計画的に推進するとともに、学校生活や授業等に支障が生じることがないよう定期的な点検を行い、早期発見、早期対応に努める。

また、学校施設の環境改善及び新型コロナウイルス感染症防止対策のため、学校トイレの全面改修を実施し、快適なトイレ環境の提供に努める。

このため、次の施策を行う。

(1) 確かな学力の育成

ア 多賀城ふるさと学習の推進 ~多賀城を知り多賀城を語れる児童生徒の育成~

- ふるさとの自然、歴史的文化財、伝統文化等の地域素材の積極的活用
- 副読本「私たちの多賀城」「命をまもり 未来をひらく」の活用と整備
- 友好都市との交流による学習の深化
- 立地企業や大学との連携による、体験型科学教育、キャリア教育の推進

イ 学びの質の向上

- 学びに向かう関係づくりを意図した支援
 - ・聴き合う関係づくりを生かした聴く力の育成
 - ・自然体験、文化芸術体験等、体験学習の工夫と充実
 - ・対人関係ゲームやMAPの活用
- 主体的・対話的で深い学びの追求
 - ・二学期制を生かした、主体的な学びを推進するカリキュラムマネジメント
 - ・探究的な学習を可能にする価値ある課題設定
 - ・教職員の主体的・共同的な学習を進める支援技術の向上を図る研修の推進
 - ・教職員の主体的な研修を支える同僚性の向上
- 家庭との連携を図った学習意欲の醸成と学習習慣の確立

ウ 未来を開く教育の推進

- GIGAスクール構想の推進
 - ・プログラミング教育の推進と教育用クラウドサービスの活用推進
 - ・児童生徒の発達段階に応じたタブレット等の基本的な操作スキルの定着
 - ・現状を踏まえた情報モラル教育の推進
- 震災を教訓とした防災教育の推進
 - ・地域と共有し、共に創る学校危機管理体制
 - ・東北大学災害科学国際研究所、多賀城高等学校災害科学科との連携、副読本の活用
- 英語教育の充実と教職員の実践型研修の推進
- (2) 豊かな心の育成
- 一人も取り残さない支援教育による支えあう学校づくり
 - スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等との連携協働
 - ・科学的知見による児童・生徒理解の推進
 - ・校内支援チームの設定とケース会議の位置づけ
 - ・支えあう学級づくりを進める学級システム整備と集団づくり
 - ・切れ目のない教育相談を可能とするシステムづくり
- 「たがじょう子どもの心のケアハウス」による学校サポート体制の充実
- 就学支援専門委員を加えた支援教育体制整備
- 児童理解・発達や学級システムに関する研修の充実と専門機関との連携
- 保幼小連携や小中連携、福祉部局と教育委員会の情報共有と協働・連携の強化
- 規範意識・自己肯定感や自尊心を高める道徳教育の推進
- 「語りかけて励まし、認めて育てる」、心のかよいあう生徒指導の推進
- (3) 健やかな体の育成
 - 児童生徒等の健康診断の実施、学校保健会活動の支援
 - 地域における児童生徒のよりよい環境づくり
 - 新型コロナウイルス感染症に対する感染予防習慣の徹底
 - 新型コロナウイルス感染下において自分にあった形の適切な運動習慣の確立
 - 健康と安全に関する自己管理能力の育成と基本的生活習慣の形成
 - 給食センターと学校が連携した食育の推進
- (4) 教育環境の保全と運営
 - 各種支援員等の適切な配置
 - 教材等の教育環境の整備
 - 教員が子どもと向き合う時間の確保(働き方改革の推進)
 - 安全で安心して学ぶことのできる学校施設の計画的な整備
 - 一人一台パソコン端末の配置、無線LAN環境の整備
 - 各学校の特色を生かし、感染症防止に配慮した機能的な施設利用の工夫
 - 継続的、探究的な危機管理マニュアルの点検整備
 - 体験的・問題解決型の防災学習の工夫
 - 学校給食に係るハード、ソフト両面の安全確保
 - 通学区域再編に関する調査・研究(庁内関係課間)

3 生涯学習の推進

社会環境が大きく変化する中にあって、賢く、楽しく、生きがいを持って暮らすためには、生涯を通した学びにより、「生活の質」を高めていくことが大切である。そのため、生涯学習の拠点となる公民館や図書館などの社会教育施設においては、市民が学び、また、それを通じて交流する場としてふさわしい管理を行っていく。

また、多様な学びのニーズに対応した学習メニューを用意するとともに、利用者が自らの課題を解決する学びを支援することにより、生涯学習社会の形成を推進する。

指定管理者制度を導入している生涯学習施設においては、民間企業や地域の市民団体の強みを生かし、「学び」の深化を目指す。

このため、次の施策を行う。

- (1) 学びと発揮の機会の確保
 - 公民館等における社会教育講座の開催
 - 図書館における読書と学習の場の提供、各種イベントの開催
 - 視聴覚ライブラリーの運営
 - 子どもの読書を促進する学校図書館の支援
 - 学習の成果発表の機会となる文化センターまつり、山王地区公民館まつり、大代地区公民館 まつりの開催
 - 生涯学習活動を支援するための生涯学習活動費への補助
 - 生涯学習団体等への補助
- (2) 文化芸術の振興
 - 文化センター等における芸術鑑賞機会の提供
 - 市民音楽祭等の音楽イベントの実施
 - 文化芸術振興団体等への補助
- (3) 生涯学習施設の運営
 - 施設・設備の適正な維持管理
 - 利用者サービスの充実
 - 大代地区公民館体育室照明のLED化

4 スポーツの振興

市民の健全な心身と健康の保持・増進を図るため、スポーツ活動を促進し、多種目・多世代・多目的で作る市民スポーツ社会を実現する。そのため、統合型地域スポーツクラブとの連携・協力により、多様なスポーツ事業を実施し、人と人との交流や地域間の交流を通し、活気あふれる元気なまちづくりを推進する。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に当たり、本市が聖火リレーのコースとして決定したことから、関係機関と協力しながら事業を実施し、市民のオリンピックに対する関心を高め、気運醸成を図る。

また、キューバ共和国のホストタウンとして、野球代表チームと市民による交流事業を実施し、スポーツ振興はもとよりグローバル化の推進、地域の活性化に生かす。

このため、次の施策を行う。

- (1) スポーツ機会の充実
 - 社会体育施設等におけるスポーツ教室等の開催

- 学校施設を開放してスポーツ振興を図る学校開放の実施
- 全日本実業団対抗女子駅伝競走大会の運営支援
- 東京2020オリンピック・パラリンピック関連事業の実施
- (2) 社会体育施設等の保全と運営
 - 施設・整備の適正な維持管理
 - 利用者サービスの充実

5 文化財の保存と活用

文化財を適正に保存・活用することは、市民の歴史・文化に対する意識の向上に繋がり、ひいては本市の個性豊かな魅力あるまちづくりに大きく寄与するものである。

本市ならではの歴史・文化を活かしたまちづくりを推進するため、郷土の貴重な遺産である文化財を保護・継承し、関係部署等との連携のもと、その活用を図る。

このため、次の施策を行う。

- (1) 文化財の調査・保存の推進
 - 埋蔵文化財の発掘調査の実施
 - 市内歴史遺産調査の実施及び報告書の作成
 - 特別史跡多賀城跡附寺跡第3次保存管理計画に基づく公有化の促進
 - 地域との連携による史跡地内の景観保全
- (2) 文化財の積極的な活用促進
 - 特別史跡多賀城跡復元整備事業(南門等復元及び周辺整備)の推進
 - 歴史的風致維持向上計画に係る歌枕の環境整備・活用
- (3) 文化財の普及啓発の推進
 - 子どもたちの歴史的な体験学習機会や市民が文化財に触れる機会の充実
 - 市の歴史・文化の魅力を広く伝える展示会、講座や出前学習等の充実
 - 郷土芸能の振興と活動支援

多 賀 城 市 教 育 委 員 会 点 検 · 評 価 報 告 書 (令 和 3 年 度 事 業) 令 和 4 年 1 2 月

多賀城市教育委員会事務局教育総務課

〒985-0831 宮城県多賀城市中央二丁目1番1号
TEL 022-368-1141 FAX 022-309-2460
市ホームページURL

http://www.city.tagajo.miyagi.jp/index.html

本報告書掲載URL

http://www.city.tagajo.miyagi.jp/kyoiku/kosodate/tenkenoyobihyouka/tenkenoyobihyouka.html